

平成27年度地(知)の拠点整備事業【大学COC(Center of Community)事業】報告書  
看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた  
地域のまちづくり事業



# Contents

## ご挨拶

大分県立看護科学大学 学長・理事長	1
大分県立看護科学大学 看護研究交流センター長	2

## I.大分県立看護科学大学 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の概要

1 大分県立看護科学大学の取り組み	3
2 看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業	4
3 学部教育のカリキュラム改革－より地域へ貢献する大学へ－	5
4 大分県立看護科学大学 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の評価	6

## II.大分県立看護科学大学 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の推進組織体制

1 学内の事業推進組織体制	7
2 学内の事業推進組織体制図	8
3 事業推進会議	9
4 事業推進会議関係機関・団体	9
5 事業報告会（地域交流会）	10

## III.大分県立看護科学大学 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の実施報告

1 実施報告	11
2 事業推進会議	13
3 予防的家庭訪問実習	
1) 目標	16
2) 学生オリエンテーション	16
3) 概要	18
4 事業報告会（地域交流会）	
1) 目的	19
2) 学生オリエンテーション	19
3) 実施状況	20
4) 学生発表資料	22
5 学内（大分県立看護科学大学）での教育・研究体制	
1) 学内検討会	24
2) 事業評価	
①協力者への効果	25
②地域住民への効果	27
③学生への効果	28
④対照群調査	30
⑤Colorado大学名誉教授Kathy Mgilvy博士によるコンサルテーション	32

## IV.研究

1 研究発表	35
--------	----

## V.地域貢献

1 大分県立看護科学大学・日本文理大学 共同記者会見	36
2 大分県立看護科学大学・日本文理大学 成果発表会&合同シンポジウム ～地域をまもり、地域をつくる、大学の取り組み～	39
3 野津原地区の祭り（ななせの里まつり）～予防的家庭訪問実習コーナー	44
4 OBS大分放送テレビ放映～予防的家庭訪問実習場面～	45
5 学園祭（若葉祭）～ポスター展示～	46
6 オープンキャンパス～予防的家庭訪問実習って何だろう？～	47

## 資料

●大分県立看護科学大学 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）推進会議設置要綱	48
●大分県立看護科学大学 地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）推進会議幹事会運営要領	49
●平成27年度地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）幹事会メンバー	49
●平成27年度地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）地域連絡会議メンバー	49
●平成27年度地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）推進会議委員名簿	50
●新聞・インターネット掲載記事	51
●事業実施記録	54

# ご挨拶



## 本格的に動き始めた「予防的家庭訪問実習」

「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」は、平成25年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択された後、2年間の準備・試行期間を経て、平成27年4月より本格実施することができました。

本学の全学生と全教員（学生333名、教員61名 平成27年4月1日現在）が取り組んでいます。

平成27年度には1年次生から4年次生のすべての学生が、異なる学年で構成されたグループに分かれ、大学近くの野津原地区と富士見が丘団地に住む80名の協力者のお宅に、継続的に家庭訪問実習を行いました。

協力者の心身の機能低下を予防し、その人がその人らしく、住み慣れた自宅で過ごしていくためにはどのような関わりをしていけばよいのか、学生たちが自ら計画を立て、実施してまいりました。

長く人生を歩み多くの経験をしてきた協力者から、学生は、看護に関することだけでなく、人生や生きがいについても学ぶことができました。このことは、学生自らの人生についても考える機会になりました。

また、訪問実習の学びを発表し、地域の方々と交流することを目的とした「事業報告会（地域交流会）」を、平成27年度には全14回開催し、延べ約200名もの地域住民の方に参加していただくことができました。事業報告会（地域交流会）では地域の方々から直接的に意見を聞くことができ、学生だけではなく教員にとっても大変貴重な機会となりました。

本事業の推進にあたっては、初年度より地域の皆様から多大なご支援をいただき、深く感謝申し上げます。平成27年度の実習と事業報告会（地域交流会）が無事に終了できましたのも、一重に地域のご協力者、事業推進委員をはじめとした皆様のお力添えのおかげです。

全学をあげて取り組む本事業を推進することにより、本学が地域の知の拠点となり、地元の皆様のお役にたてると共に、地域に根差した学問の構築ができますよう、今後ともさらなる努力を重ねてまいりたいと存じます。

皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成28年3月

大分県立看護科学大学  
学長・理事長

村嶋 幸代

# ご挨拶



本事業の三年目となる平成27年度は、予防的家庭訪問実習を全学的・本格的にスタートさせる年となりました。看護学生全員が縦割りで（学年を越えて）チームを組み、在宅高齢者を定期的に訪問してその生活を理解しつつ保健指導などを行う、これに全学の教員が関わる、という画期的な取り組みです。同年度から改定されたカリキュラムでは、必修の正課として位置づけている実習です。これまで二年間の試行をふまえてスタートしたわけですが、全学的に実施するとなると、想定を越えた状況や課題に直面したことも事実です。それらを整理して一つ一つ乗り越えてきた経過を、ここに報告いたします。

本事業の推進にあたっては、訪問を受け入れてくださる皆様のご協力、これに加えて地域の行政・自治会など多方面からのご協力をいただいています。心より感謝を申し上げます。このような大きな事業に小さな単科大学が取り組むことは容易ではありませんが、こうしたご支援ご協力のおかげで、公立看護系単科大学である本学の長を良く発揮することができています。

一般的には看護師に対して、「病院で働く白衣の天使」というステレオタイプの印象があります。しかし、患者と呼ばれる方々も本来は社会や家庭で生活する人です。したがって、看護する者はその方々の生活の基盤を見る必要があり、つまり社会に対して目を開いている必要があります。そこで、人生経験の浅い学生が大学や実習病院という特殊な空間を飛び出し、地域社会の中で学ばせていただくことができるのは、看護教育においてとても有意義なことです。本事業によって学生にどのような変化があったか、地域社会に対してはどのようなインパクトがあったのかを、引き続き検証してゆく予定です。

平成28年3月

大分県立看護科学大学  
看護研究交流センター長 **影山 隆之**



**大分県立看護科学大学  
地(知)の拠点整備事業  
(大学COC事業)の概要**



# 1

## 大分県立看護科学大学の取り組み

### 地域の課題



大分県立看護科学大学（以下「本学」という。）は、北東に富士見が丘団地、南西に旧野津原町が広がっており、両地区とも高齢化率が高く、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯の増加という現代の日本が直面する共通の課題を抱えている。

#### 野津原地区

東西12.5km、南北7.5kmの広大な土地に4,550人が住んでいる。高齢化率は平成27年3月には41.8%と高い。地域で支えあう習慣はあるが、若者が減少しており、これまで高齢者を支えてきた人たちも、高齢者になりつつある。また、山間部ほど高齢化が進み、集落が小規模で分散している。

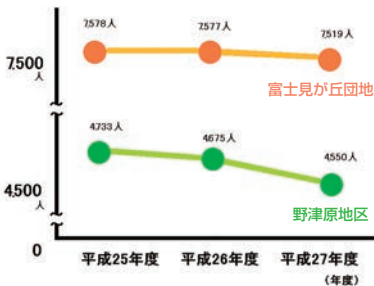
公共の交通機関がほとんどないため、病院、スーパー、郵便局等へのアクセスが自力では難しい。人口の減少が深刻で、高齢者の孤立化が課題となっている。



#### 野津原地区

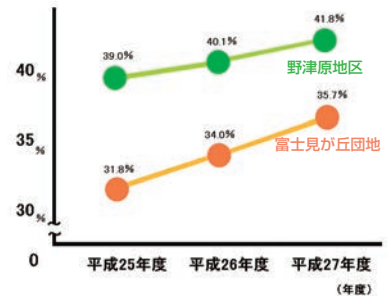
(面積 98.75km<sup>2</sup> 人口 4,550人)

野津原地区、富士見が丘団地の人口の推移

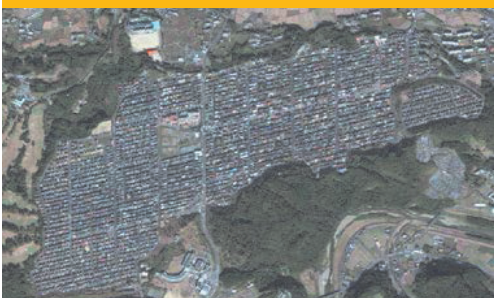


共通の課題  
孤立しがちな高齢者への対策  
↓ ↓  
きめ細かいアウトリーチが必要

野津原地区、富士見が丘団地の高齢化率の推移



#### 富士見が丘団地 (面積 2.6km<sup>2</sup> 人口 7,519人)



#### 富士見が丘団地

昭和40年代に開発された一戸建て住宅からなる東西2.0km、南北1.3kmにわたる郊外型団地である。開発後、約40年が経過するため高齢化が著しく、かつ、その進行も速い。人口7,519人のうち65歳以上の占める割合は平成27年3月には35.7%となり、対前年比で1.7%の増加となっている。

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多く、3つある自治会やその上部組織である連合自治会とも、介護予防プログラムに積極的である。一方で地形的に坂と階段が多く、高齢者が外出しにくいいため、公民館でサロンが開かれても、虚弱な高齢者が徒歩で参加するのは難しい状況にある。また、介護予防のイベントを行っても特定の人しか集まらないため、自宅に閉じこもっている人にどのようにアプローチをするかが課題となっている。

出典データ：大分市ホームページより

# 2

## 看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業

### 1. 目的

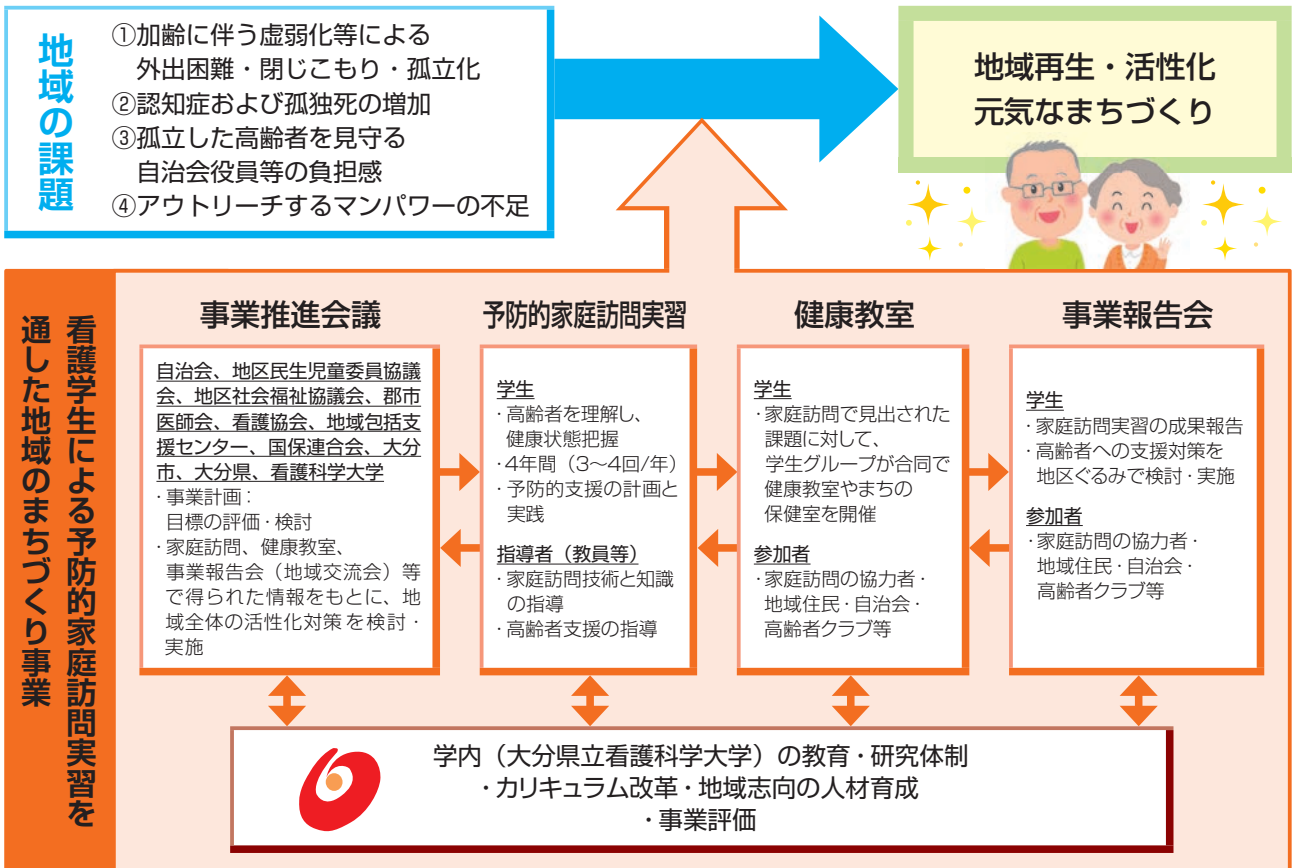
学生が大学4年間を通して継続的に予防的家庭訪問を行い、高齢者の健康状態や生活実態などを把握し、心身の機能低下予防に向けた支援を行うことによって、地域の高齢者の自立を促進するとともに、地域の再生・活性化に寄与することを目的とする。

### 2. 事業内容

- ①高齢化の進む地域で、学生が予防的家庭訪問実習（看護実習として必修）を行う。孤立化しがちな75歳以上の高齢者に対し、卒業までの4年間、定期的かつ継続的に家庭訪問を実施し、高齢者の機能低下を予防する。
- ②アウトリーチにより、早期に把握された高齢者の課題は、学生が地域の健康課題として集約し、公民館等で健康教育等を行う。また、早期に対応が必要な場合は、当該高齢者の了解を得て、しかるべき機関につなげ、解決を図る。
- ③定期的に行政や自治会、高齢者クラブ等の組織や団体と話し合う場を設け（事業推進会議等）、一緒に地域の課題を解決していく（まちづくり）。

### 3. 事業効果

学生が予防的家庭訪問実習を行うことにより、地域で暮らす高齢者の状況が明らかになり、より深く地域の現状がわかる。本学の教育研究活動を通して地域の問題を吸い上げ、明確にし、地域と本学でその課題に対応する方策を考える契機とする。地域の関係者と会議や事業報告会（地域交流会）を定期的実施することにより、事業を円滑に進めると同時に、地域の課題を一緒に考える共通基盤をつくる。



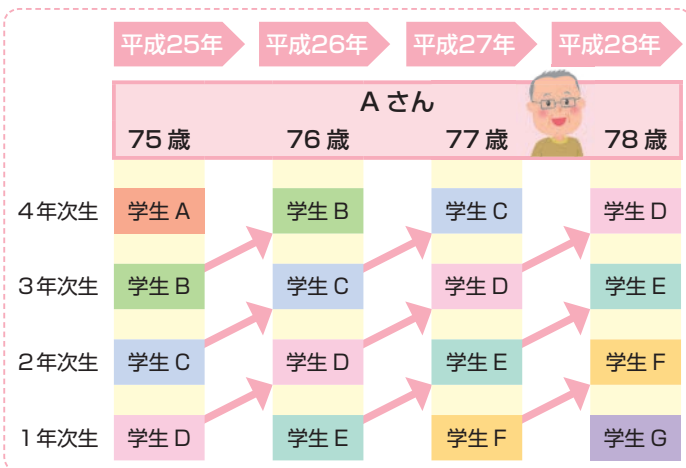
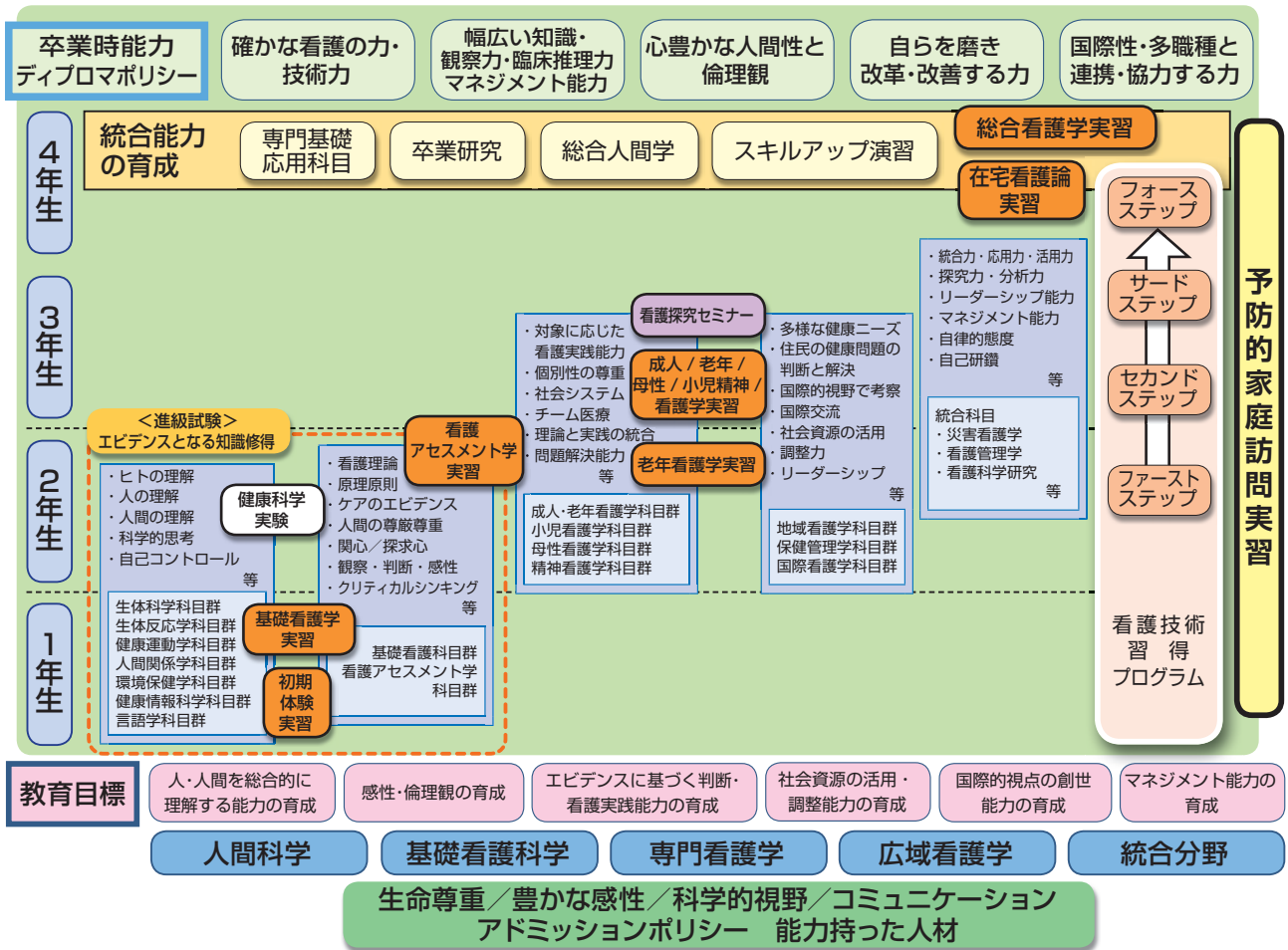


# 3

## 学部教育のカリキュラム改革 —より地域へ貢献する大学へ—

従来の看護学実習は、急性期医療の場を中心に実施しているため、一人の人を長期間かけて看護するという視点が育ちにくい。この限界を打破するため、カリキュラムを改正して予防的家庭訪問実習を創設し、自宅で生活する高齢者を学生が4年間を通して担当し、継続的に訪問する過程で協力者への理解を深め、高齢者のニーズに合わせた支援ができることを目指す。

本学のカリキュラムは4年間で看護師を教育するプログラムである。その間、6段階の臨地実習により看護実践能力の習得を図るが、これに、平成27年度から予防的家庭訪問実習を本格的に導入し、地域を志向したカリキュラムに変革した。



予防的家庭訪問実習では、1年次生から4年次生の縦割りでグループを構成する（基本グループ人数4名）。学生は学年を超えたグループメンバーと共同作業を行うこととなり、他の学年との交流や意見交換が可能となる。

人間科学系と看護学系の教員がペアになり各グループの指導にあたる。各教員ペアは2～3グループを担当し、各訪問の前後にアドバイスをすると共に、初回および、その年度の最後には学生の訪問に同行する。

定期的に実習合同会議を開催し、教員間の意見調整・共通認識を図る。

## 4

大分県立看護科学大学 地（知）の拠点  
整備事業（大学COC事業）の評価

高齢者・地域（野津原地区・富士見が丘団地）・学生・大学の各々に対して評価指標を設定している。事業開始3年目にあたる平成27年度は、下記の指標を立て評価を開始した。

対象	課題	対策（本事業）	効果（アウトカム）
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う虚弱化等による外出困難・閉じこもり・孤立化</li> <li>・認知症の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の訪問受入で定期的な会話と役割感を持つ</li> <li>・定期的な健康管理</li> <li>・近所の健康教室等へ参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立化緩和（外出回数の増加、閉じこもり・うつ傾向減少）</li> <li>・QOLの維持・向上</li> <li>・救急搬送・受診回数の減少</li> <li>・入院・入所の日数や回数の減少</li> <li>・介護保険認定状況の改善</li> </ul>
地域 野津原地区・富士見が丘団地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立した高齢者を見守る自治会役員等の負担感</li> <li>・アウトリーチするマンパワー不足</li> <li>・地域の衰退</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立しがちな高齢者を訪問するマンパワー確保</li> <li>・学生が定期的に地域に入ることによって活力が得られる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤立しがちな高齢者にアウトリーチできる</li> <li>・介護予防のイベントやサービスへ参加者増加</li> <li>・学生の訪問により高齢者や地域の活性化・再生、まちづくりへ発展</li> </ul>
学生・大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期間の看護学実習</li> <li>・協力者を生活の場で長期間支援する体験が難しいカリキュラム</li> <li>・家庭訪問する機会・期間が限られている教育・限定的な教授方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年間通して同一協力者をフォローし、健康状態を見ていく実習体験</li> <li>・カリキュラム改革</li> </ul>	<p>&lt;学生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者への継続的関わりで、家庭訪問・コミュニケーション・健康教育・アセスメント・ケアマネジメント等技術の向上</li> <li>・予防的視点と問題解決思考が訓練される</li> </ul> <p>&lt;大学&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育方法の改善・改革</li> <li>・地域で暮らす高齢者の健康状態経年把握</li> </ul>



**大分県立看護科学大学  
地(知)の拠点整備事業  
(大学COC事業)の  
推進組織体制**



# 1

## 学内の事業推進組織体制

### 1 学内の事業推進組織体制（8頁の図参照）

#### 1 COCプロジェクト

地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の運営を担う。事業計画・事業評価計画を検討するなど、COC事業の中心的役割を果たす。

各部門（実務・教育・事業評価）を設け、連携して、事業を遂行する。

#### 2 看護研究交流センター

COCプロジェクト事務局を設置し、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）の実務を担当する。地域や連携自治体の窓口として、野津原地区・富士見が丘団地の地域組織、並びに協力者との連携を図る。また物品の購入・管理、記録の管理などを行う。学生に対しては、家庭訪問マナーに関する指導を担当するとともに、マナーオリエンテーションなどを実施し、学生の教育・指導をサポートする。

事業評価に関しては、事業評価部門の研究室や地域と連携し事業を遂行する。

##### 【主な役割】

- ①地（知）の拠点（COC）整備事業（大学COC事業）に関する会議の開催
- ②予防的家庭訪問実習の協力者のリクルート
- ③予防的家庭訪問実習の協力者や地域や連携自治体との窓口
- ④予防的家庭訪問実習の協力者・学生・学生グループ担当教員のサポート
- ⑤看護研究交流センター教職員による年度終了時の訪問

#### 3 実務部門

##### ①学生グループ編成担当

学生や教員のグループ編成を行う。

##### ②実習記録管理担当

実習記録を電子化し、円滑に実習が進むように図る。

#### 4 教育部門

##### ①単位認定担当：8研究室

###### イ. 学生の実習評価・単位認定

各学年の学生について各々2つの研究室が、担当教員による評価・学生の記録等をもとに評価・単位認定を行う。

###### ロ. 実習に関する担当学年の教育

本実習に関係する講義、演習、オリエンテーション等を検討する。

###### ハ. 実習全体の評価

実習に関する教育効果等を評価する。

##### ②実習グループ担当

###### イ. 指導体制

教員2名（人間科学系・看護学系）が2つの学生グループと協力者を担当し、指導に当たる。

###### ロ. 家庭訪問

初回および、その年度の最後の訪問は同行し、学生指導を行う。

###### ハ. 実習に関する相談・連絡

学生および協力者に問題等が発生した場合は担当教員間で協議し、必要に応じて、単位認定研究室代表者に連絡・相談する。また、地域の実習関係者への相談等が必要な場合は、看護研究交流センターへ連絡する。

###### ニ. 緊急時の対応や事業報告会（地域交流会）の準備・指導

###### ホ. 評価

学生の訪問日数（回数）、訪問内容、態度、記録、レポート等に関する評価を年度末に行い、評価表を入力する。

##### ③家庭訪問マナーに関する指導担当

学生オリエンテーションでマナーに関する指導を実施する。

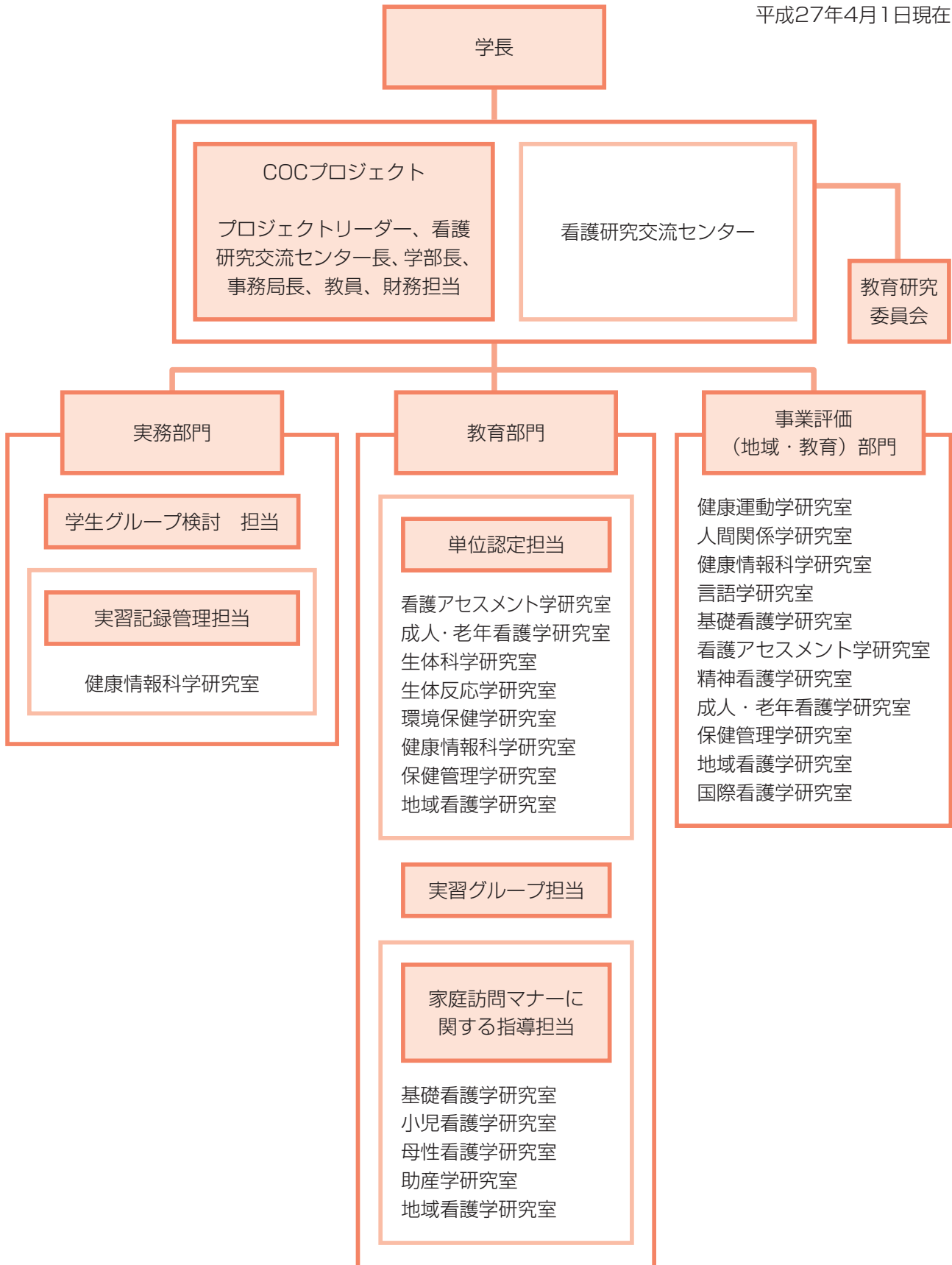
#### 5 事業評価部門

地域志向性の高い教育・研究を進めるため、予防的家庭訪問実習の協力者・学生・地域に対する事業の評価指標と調査方法を検討する。事業評価に関する学内の役割分担を行う。

# 2

## 学内の事業推進組織体制図

平成27年4月1日現在



# 3

## 事業推進会議

大学と関係者によって構成された事業推進会議を年3回開催し、事業の計画、中間評価、および事業評価などを行う。

# 4

## 事業推進会議関係機関・団体

平成27年4月1日現在

### 野津原地区関係

- 野津原地区自治委員連絡協議会
- 野津原地区社会福祉協議会
- 野津原地区民生児童委員協議会
- 野津原地区地域包括支援センター
- 大分市市民部野津原支所
- 大分市保健所健康課西部保健福祉センター  
野津原健康支援室

### 富士見が丘団地関係

- 富士見が丘連合自治会
- 横瀬地区社会福祉協議会
- 横瀬地区民生児童委員協議会
- 植田西地区地域包括支援センター
- 大分市市民部
- 大分市保健所西部保健福祉センター

### 大分郡市医師会

### 大分県看護協会

### 大分県国民健康保険団体連合会

事業課

### 大分市

- 福祉保健部長寿福祉課
- 保健所健康課

### 大分県

- 福祉保健部福祉保健企画課
- 福祉保健部医療政策課
- 福祉保健部高齢者福祉課

# 5

## 事業報告会（地域交流会）

本実習の成果や課題を地域の方と共有するため、年14回、地域で事業報告会（地域交流会）を開催する。報告会では、学生が家庭訪問での学びを報告し、地域の高齢者が自立して自宅（在宅）で生活しつづけるための方法等を提案する。また、必要に応じて、保健・医療・福祉のトピックスなどの健康教育を実施する。学生・教員は参加者と交流を深める。





**大分県立看護科学大学  
地(知)の拠点整備事業  
(大学COC事業)の  
実施報告**



## 1

## 実施報告

本年度から全学生333人による予防的家庭訪問実習を開始した。

予防的家庭訪問実習がスムーズに行われるために、以下のとおり、地域と大学が連携し、本事業に取り組んだ。また学内での検討会も重ねた。

平成27年 4月 6日	新任教員への予防的家庭訪問実習の説明会
4月14日 15日	第1回予防的家庭訪問実習全学オリエンテーション
4月22日	平成27年度予防的家庭訪問実習開始
4月28日	大分県立看護科学大学・日本文理大学 学長共同記者会見
5月16日 17日	学園祭（若葉祭）ポスター展示
5月22日	第1回学内プロジェクト会議
5月26日	第1回地域連絡会議（野津原地区・富士見が丘団地）
6月 2日	第1回幹事会
6月 9日	第1回事業推進会議
6月18日	第2回予防的家庭訪問実習全学オリエンテーション
7月19日	オープンキャンパス（模擬授業・ポスター展示）
9月 2日	第1回対照群調査（竹の内公民館/竹の内ふれあいサロン）
9月 3日	第2回対照群調査（原村ふれあいセンター/原村ふれあいサロン）
9月5日～12日	Kathy Magilvy博士来学・コンサルテーション
9月 7日	第3回対照群調査（富士見が丘公民館/わかば老人クラブ）
9月 8日	第4回対照群調査（野津原支所・多世代交流プラザ/サプナ健康体操クラブ）
9月15日	第5回対照群調査（田島公民館/田島地区心の会）
9月16日	第6回対照群調査（富士見が丘公民館/長寿会）
9月17日	第7回対照群調査（上詰公民館/上詰ふれあいいいききサロン）
9月24日	第2回プロジェクト会議
10月 2日	第2回幹事会 第2回地域連絡会議（野津原地区・富士見が丘団地）
10月 5日	予防的家庭訪問実習事業報告会（地域報告会）の説明会 2年次生
10月 6日	予防的家庭訪問実習事業報告会（地域報告会）の説明会 4年次生
10月 7日	予防的家庭訪問実習事業報告会（地域報告会）の説明会 1年次生
10月 8日	第8回対照群調査（Nスポランド/Nスポいきいき元気教室）
10月13日	第2回事業推進会議 第1回学内検討会
10月14日	第9回対照群調査（新町公民館/新町地区ふれあいサロン）

10月15日	第10回対照群調査（野津原支所/ななせいきがいくらぶ）
10月28日	第11回対照群調査（富士見が丘公民館/はつらつサロン）
11月 4日	第1・2回事業報告会（地域交流会）/廻栖公民館・新町公民館
11月11日	第3・4回事業報告会（地域交流会）/入蔵公民館・福宗二公民館
11月18日	第5・6・7回事業報告会（地域交流会） /野津原支所・太田公民館・今市健康増進センター
11月25日	第8回事業報告会（地域交流会）/富士見が丘公民館
12月 1日	予防的家庭訪問実習 事業報告会（地域交流会）の説明会 3年次生
12月8日～ 平成28年 3月	教員による年度終了時の訪問
12月 9日	第9回事業報告会（地域交流会）/富士見が丘公民館
12月18日	関係者会議
平成28年 1月13日	第10回事業報告会（地域交流会）/原村ふれあいセンター
1月20日	第11・12回事業報告会（地域交流会） /原村ふれあいセンター・富士見が丘公民館
1月25日	第3回地域連絡会議（野津原地区・富士見が丘団地）
1月26日	第2回学内検討会 第3回学内プロジェクト会議
1月27日	第13・14回事業報告会（地域交流会）/竹の内公民館・富士見が丘団公民館
1月31日	平成27年度予防的家庭訪問実習終了
2月 1日	第3回幹事会
2月 9日	第3回事業推進会議
2月11日	大分県立看護科学大学・日本文理大学 成果発表会&合同シンポジウム
3月2日～3月28日	平成28年度予防的家庭訪問実習協力者新規リクルート

# 2

## 事業推進会議

### 1. 第1回 事業推進会議

1 日時：平成27年6月9日（火）14：00～15：30

2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室

3 出席者：37人（学外22人、学内15人）

4 議題：

- (1) 平成26年度事業実施報告
- (2) 平成27年度事業計画
- (3) 平成27年度事業報告会（地域交流会）
- (4) 協力者に実施する健康調査について
- (5) 平成27年度事業進捗状況

5 協議内容：

- (1) 平成26年度事業実施報告について
  - ・学生8グループが試行的に予防的家庭訪問実習と事業報告会（地域交流会）を実施した。（教員）
- (2) 平成27年度事業報告会（地域交流会）について
  - ・地域参加者が多い場合を考え、開催回数や場所を検討してほしい。（地域関係者）
  - ・今後も継続できるようにするため、参加して良かったと思う会にしてほしい。（地域関係者）
  - ・昨年度参加したが、非常に有意義な会だったので多くの人に参加してもらえるようにしてほしい。（地域関係者）
  - ・予防的家庭訪問実習のPRのために映像を流してはどうか。（地域関係者）
- (3) 平成27年度事業計画について
  - ・計画について会議で了承を得た。
- (4) 協力者に実施する健康調査について
  - ・健康調査に参加したいが、交通手段がない住民もいるので検討してほしい。（地域関係者）
- (5) 平成27年度事業進捗状況について
  - ・協力者と家庭訪問実習の日程調整を行うために、学生が協力者に電話をするが、連絡が取りにくい場合があるので、対応を考える必要がある。（教員）



会議風景



会議風景

## 2. 第2回 事業推進会議

1 日時：平成27年10月13日（火）14：00～15：30

2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室

3 出席者：34人（学外21人、学内13人）

4 議題：

- (1) 平成27年度事業実施報告
- (2) 家庭訪問の様子：動画視聴
- (3) 平成27年度事業計画
- (4) 平成27年度事業報告会（地域交流会）
- (5) 協力者に実施する健康調査について
- (6) その他

5 協議内容：

- (1) 平成27年度事業実施報告について
  - ・ いい評判が地元にも伝わっている。（地域関係者）
  - ・ 学生が訪問中に協力者宅に詐欺の電話がかかってきたが上手く対応できた。（教員）
- (2) 家庭訪問の様子：動画視聴
  - ・ 動画は素晴らしい。事業の内容がわかりやすい。イメージが伝わってきたので、推進会議の話合いも活発になる（地域関係者）
  - ・ 動画を製作した佐藤克治氏（野津原地区自治委員連絡協議会 会長）への謝辞。（教員）
- (3) 平成27年度事業計画について
  - ・ 計画について会議で了承を得た。
- (4) 平成27年度事業報告（地域交流会）について
  - ・ 個人情報の取りあつかいには注意してほしい。（地域関係者）
  - ・ 野津原地区・富士見が丘団地全戸にチラシを配布し、会への参加を促している。サロンや老人会の中で時間を頂いて実施することも考えている。（教員）
- (5) 協力者の健康調査について
  - ・ 調査を始める前に考えていたより地元の受け入れがいいという印象で、とてもいい雰囲気。（教員）
- (6) 事業に対する地域の意見
  - ・ ありがたい実習だと思っている。学生が高齢化率の高い野津原地区に出向いてくれることは地域の活性化にもつながり、とてもいい事業だと思う。積極的に支援していきたい。（地域関係者）
  - ・ 高齢者二人暮らしでも普段は夫婦の会話があまりない所も多いが、学生が訪問に来てくれることによって、夫婦の会話も増えると思う。（地域関係者）



会議風景



予防的家庭訪問実習の動画視聴

### 3. 第3回 事業推進会議

1 日時：平成28年2月9日（火）14：00～15：30

2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室

3 出席者：34人（学外20人、学内14人）

4 議題：

- (1) 平成27年度事業実施報告
- (2) 平成28年度事業評価計画（案）

5 協議内容：

(1) 平成27年度事業実施報告について

① 予防的家庭訪問実習について

- ・ 予防的家庭訪問実習へ行く前に必ず学生間で事前カンファレンスを行い、どのような訪問にするのかを話し合っている。（教員）
- ・ 学年ごとの目標に沿って、グループメンバー全員で計画を立てるようにしている。（教員）
- ・ 訪問の日程は協力者と学生の予定を合わせ、無理のないスケジュールで実施している。（教員）

② 事業報告会（地域交流会）について

- ・ 学生がしっかりと打ち合わせをして発表にいどんだ様子を見るのが出来た。地域としても今後も続けて行って欲しいと思う。（地域関係者）
- ・ 5分で訪問の学びをまとめるのは大変難しいと思ったが、学生は上手くまとめていた。今後の対策もしっかりと考えていたと感じた。（地域関係者）
- ・ 事業報告会（地域交流会）のあり方はもう少し考える必要があるのではないか。地域の人にもメリットがあるような内容にするとなおよい。（地域関係者）
- ・ 事業報告会（地域交流会）に多く地域の人に参加してもらうためには、チラシを配布するだけでなく、地区の自治委員などに呼び掛けてもらうことなども必要だと思う。（地域関係者）

(2) 平成28年度事業評価計画（案）について

- ・ 認知症が医師会でも大きな問題となっている。認知症について学生が偏見をもたないようにしてほしい。【地域関係者（医師）】
- ・ 本事業の文科省の補助は平成29年度までだが、本学ではカリキュラムを変えて実習として位置づけた。補助が終了しても、実習として継続していく予定である。（教員）



会議風景

# 3

## 予防的家庭訪問実習

### 1. 目標

- 1 1年次生は、在宅で生活する協力者とコミュニケーションをとることができ、地域で生活する人の全体像を理解する。グループのメンバーとして協力し支える。
- 2 2年次生は、担当する協力者を生活者の視点でとらえ、健康や生活の在り様をアセスメントできる。また、その方法を他学年に伝える。グループのメンバーとして協力し、グループを支える。
- 3 3年次生は、担当する協力者の健康や生活に関するアセスメントと、必要な支援を考え実施しながら、グループのサブリーダーとして、その方法を他学年と共有し、継続した支援を実施する。
- 4 4年次生は、担当する協力者の健康や生活に関するアセスメントや実践を展開しながら、その方法をグループのリーダーとして他学年と共有し、継続した援助を実施する。

### 2. 学生オリエンテーション

- 1 スケジュール ・平成27年4月14日（火） 1・2限/全学合同オリエンテーション  
・平成27年4月14日（火） 3・4限/グループワーク  
・平成27年4月15日（水） 1・2限/訪問マナーについてのロールプレイ
- 2 学生参加人数：1年次生85人、2年次生86人、3年次生80人、4年次生78人 計329人
- 3 オリエンテーション内容  
(1) 4月14日（火） 1・2限/全学合同オリエンテーション  
・学長挨拶  
・実習の説明（実習理念・実習目標・実習の心得・年間スケジュール・グループ編成・家庭訪問の方法・記録・カンファレンス・評価）  
・講演 野津原地区自治委員連絡協議会 会長 佐藤 克治  
富士見が丘連合自治会 会長 佐々倉 幸義



実習の説明を聴く学生と教職員



講演を聴く学生と教職員



講演 佐藤 克治（野津原地区）



講演 佐々倉 幸義（富士見が丘団地）



(2) 4月14日(火) 3・4限/グループワーク

①グループワークの内容

- ・グループメンバー間での自己紹介
- ・訪問協力者の情報確認：連絡先、住所、地図等
- ・訪問の日程調整
- ・協力者へのグループメンバーの紹介資料の準備（メンバー学生の氏名、顔写真等）
- ・グループのロッカーと物品の確認（名札の記入）
- ・記録の確認
- ・マナーについてのロールプレイの準備
- ・交通手段の確認：自動車の使用申告書の記入



大学内ホールでのグループワークの様子

(3) 4月15日(水) 1・2限/訪問マナーについてのロールプレイ

家庭訪問時のマナーについてロールプレイを実施、代表グループによる発表



グループの発表の様子



自宅への訪問を想定したロールプレイ

### 3. 概要

#### 1 実習協力者について

野津原地区51人（64%）、富士見が丘団地29人（36%）の合計80人である。  
協力者の家族構成については以下の通りである。

平成27年4月1日現在

		一人暮らし	夫婦二人暮らし	子どもと同居	その他	合計
野津原地区	男	6人 (11.8%)	11人 (21.6%)	7人 (13.7%)	1人 (1.9%)	25人 (49.0%)
	女	10人 (19.6%)	4人 ( 7.9%)	12人 (23.5%)	0人 ( 0%)	26人 (51.0%)
	合計	16人 (31.4%)	15人 (29.5%)	19人 (37.2%)	1人 (1.9%)	51人
富士見が丘団地	男	1人 ( 3.4%)	9人 (31.0%)	4人 (13.8%)	1人 (3.5%)	15人 (51.7%)
	女	8人 (27.6%)	6人 (20.7%)	0人 ( 0%)	0人 ( 0%)	14人 (48.3%)
	合計	9人 (31.0%)	15人 (51.7%)	4人 (13.8%)	1人 (3.5%)	29人
合計		25人 (31.2%)	30人 (37.5%)	23人 (28.8%)	2人 (2.5%)	80人

#### 2 訪問回数について

- (1) 全学年（333人）が1～4年次生で80グループを編成し、1～2ヶ月に1回程度訪問する。
- (2) 1年次生は3回以上、2～4年次生は4回以上【事業報告会（地域交流会）を含む】訪問する。

#### 3 訪問期間について

- (1) 1年次生：平成27年6月18日のオリエンテーション後～平成28年1月31日
  - (2) 2～4年次生：平成27年4月15日のオリエンテーション後～平成28年1月31日
- ※原則として、土日祝日、夏季・冬季休暇期間は訪問実習を行わない。

#### 4 協力者変更について

体調の変化や、家族の事情などにより、協力者17人が変更。  
新たな協力者のリクルートには地域包括支援センターの協力を得た。

#### 5 実施状況

協力者が受けた訪問回数（平成28年1月31日現在）

- 3回：1グループ
- 4回：22グループ
- 5回：34グループ
- 6回：22グループ
- 7回：1グループ



地域を歩き家庭訪問へ向かう学生と教員

# 4

## 事業報告会（地域交流会）

### 1. 目的

学生が家庭訪問の学びを地域の方に報告することによって、相互に実習の意義を理解する。また、学生が参加者の血圧や体力測定を行うことによって、参加者が健康づくりの機運を高める機会とする。

### 2. 学生オリエンテーション

1 日時：平成27年6月18日（木）3・4限

2 場所：講堂  
講義室、演習室、会議室、学生ホール

3 対象学年：全学年

- 4 内容：
- (1) 学長挨拶
  - (2) 予防的家庭訪問実習についての確認事項
  - (3) 事業報告会（地域交流会）の目的・方法
  - (4) 昨年度の事業報告会（地域交流会）の様子  
・ビデオ放映・昨年度経験した学生の発表
  - (5) 健康や生活に関する調査票の紹介
  - (6) 質疑応答・グループワークの進め方
  - (7) グループワーク  
グループ毎に講義室に分かれ今後の訪問や  
事業報告会（地域交流会）の打ち合わせ



昨年の事業報告会(地域交流会)について発表する学生



学長の挨拶を聴く学生



グループワークの様子

### 3. 実施状況

#### 1 内容：

- (1) 健康チェック（身長、体重、血圧、脈拍、握力、開眼片足立ち）
- (2) 学びの発表（各グループ5分）

#### 2 実施状況

	開催日	時間	場所	参加者 (合計)	内訳				
					地域			学内	
					協力者 (人)	地域住民 (人)	関係機関 (人)	学生 (人)	教職員 (人)
①	平成27年 11月 4日 (水)	14時～15時	廻栖公民館	41	3	11	0	6	6
②	11月 4日 (水)	14時～ 15時30分	新町公民館	40	6	0	0	25	9
③	11月 11日 (水)	14時～15時	入蔵公民館	26	1	10	0	11	4
④	11月 11日 (水)	14時～15時	福宗二公民館	26	3	10	0	9	4
⑤	11月 18日 (水)	14時～ 15時30分	野津原支所	49	4	6	5	27	7
⑥	11月 18日 (水)	14時～ 15時30分	太田公民館	44	3	18	0	16	7
⑦	11月 18日 (水)	14時30分～ 16時	今市健康増進 センター	44	4	0	0	24	16
⑧	11月 25日 (水)	13時15分～ 14時45分	富士見が丘 公民館	57	8	13	2	21	13
⑨	12月 9日 (水)	14時00分～ 15時30分	富士見が丘 公民館	65	7	14	0	32	12
⑩	平成28年 1月 13日 (水)	14時～ 15時30分	原村 ふれあいセンター	55	9	0	2	37	7
⑪	1月 20日 (水)	15時～ 16時30分	富士見が丘 公民館	56	5	12	0	30	9
⑫	1月 20日 (水)	14時～ 15時30分	原村 ふれあいセンター	48	6	2	0	30	10
⑬	1月 27日 (水)	14時～15時	竹の内公民館	34	3	7	0	18	6
⑭	1月 27日 (水)	14時～ 15時30分	富士見が丘 公民館	62	7	13	0	30	12
参加人数 (合計)				647	69	116	9	331	122
野津原地区 407人（協力者42人・地域住民64人・関係機関7人・学生218人・教職員76人）									
富士見が丘団地 240人（協力者27人・地域住民52人・関係機関2人・学生113人・教職員46人）									

3 事業報告会（地域交流会）の様子



受付



健康チェック（体重測定）



健康チェック（血圧測定）



学生の発表

## 4. 学生発表資料 (一部抜粋)

### 今年度の訪問の主な視点

25グループ

#### 食生活について

実際の食事

- ① フロンテ保健師さんからつけた保健指導
  - カロリー・塩分を摂りすぎているなあ
- ② 学生が食品ファンルを携えていき食事と一緒に振り返ったこと
  - 料理のときに醤油と塩が多かったなあ

#### 学生が行ったこと

- ・Aさん奥さんと一緒に煮物などの塩分測定
- ・減塩ポイントの情報提供
- ・日頃食べる物のカロリー・塩分表を作成し渡した

#### 結果

- 味噌汁の味に变化があった
- 食事の塩分を気にするようになった

### これから一緒に行ってほしいこと

#### 食生活で気をつけてほしいこと

1. 外食について心がけてほしいこと
2. 間食のとり方

#### 膝や腰の痛みについてのアドバイス

1. 膝や腰に負担の少ないストレッチのやり方
2. 生活の中での工夫

#### 緊急時の対応について

1. 避難場所や避難方法について
2. 緊急時の連絡法

#### 訪問を通して学んだこと

Aさんの身体的な変化に早く気づけるようになった  
近い視点が大切  
(Aさんをよりよく環境)

ごさいな身体的変化で生活側面に心理面・地域との関わりに影響がおこる

### 1 味噌汁の塩分濃度測定

結果: 0.8% → 基準値内

- 協力者さんの工夫の効果を一緒に確認
- 今後も食事面での工夫を続ける後押し

### 2 散歩

安全な散歩の実現

—安全計画書—

- ① 安全で快適な散歩の実現
- ② 豊かな時間の共有

- 事前準備の必要性
- 安全を配慮したサポート
- 笑顔 達成感

### 3 手芸教室・ヨガ

協力者さん 教えてもらう 学生

手芸 お手玉 ヨガ レシピ

教わった事をまとめる

やりがい 貴重な経験

### 4 今後の課題

- ・より親密な関係作り
- ・学生による観察・提案

### 予防的家庭訪問実習 報告会

〈協力者さんについて〉 6グループ 小知・山崎・甲斐・安東

〈困ったこと〉

家にいる時間が多いため人の関わりが少ない

サロンの情報が分かりにくい!

富士見が丘はらっサロン  
富士見が丘お茶会  
富士見が丘長寿会

からだ 生きがい  
膝の痛みがある 月2回通院中

お孫娘との交流  
クラブへの参加

なんで交流が必要?

- ① 身近に相談する人ができる
- ② 人との会話は楽しみに繋がる
- ③ 会話は認知症予防になる

### 〈からだについて〉

日常生活のポイント!

#### 膝の運動の実施

- ① 椅子を使った生活を心がける。
- ② 膝を冷やさないようにする。
- ③ 歩き始めは足踏みをする。
- ④ 継続は力なり!

#### 〈これから〉

- ・明膝の運動を続けられるようなサポートをしていく。
- ・定期的に体力測定をする。
- ・健康な食事について

平成27年度 予防的家族訪問実習 54グループ

**＜目標＞**  
協力者が今住んでいる地域で、今の生活を1日でも長く続けられるように一緒に取り組む

**精神面の取り組み**  
コミュニケーション

**身体面の取り組み**  
パンフレット作成 (血圧、減塩) 減塩ササゲの試食  
お元気さんさん 体様の紹介

地域の交流 (老人会等の紹介)

**＜今後に向けて＞**  
・協力者が継続できる体援の提案  
・コミュニケーションを深め、協力者の心気持ちに寄り添う

**＜訪問を通して学んだ事＞** 54グループ

① **生活環境について**  
・地域交流の大切さ  
・ペットの大切さ  
・買い物や一度にまとめて済ませる

② **取り組みを通して**  
・住む環境の観察 本人の話から生活者としての理解が深められた  
・会話の中での適切な言葉の選択  
・相手の意向を理解してやる気を引き出す事の大切さ  
・相手のニーズに合った取り組み (例) 休みのメニュー、食事

③ **グループの中での学び**  
・訪問前後の話し合いを通して多方面から協力者を捉え理解が深まった  
・各学年のアプローチが違い、互いに刺激になり学びになった

予防的家族訪問を通しての学び 一対象者との関わりから 59G

**身体面**  
・BMI 30-35  
・血圧 120-130/70-80  
・運動量 3000-4000歩  
・食事 野菜中心・減塩食  
・服薬 自己管理できている

**精神・情緒面**  
・孫とのTEL  
・友人との外出  
・近隣関係良好  
・コミュニケーション良好

**社会性について**  
日々の生活: 野菜作り  
+ グラウンドゴルフ(2日/週)  
+ 体操教室(1日/月)  
+ 老人会

緊急時に気付いてもらえるように、近所の方に、外出前や帰宅時に、声かけを行っている。

対象者

日々の楽しみ 散歩・運動になる!!

対象者さんが5年後も健康でいるために...?

**＜社会・精神面＞**  
現在行っている野菜づくりや、近隣の方との外出・コミュニケーション、日々の生きがい等を今後も継続する。

**＜身体面＞**  
血圧管理の継続  
服薬管理の継続  
BMIの減少を目指す  
減塩を行う(塩分濃度測定)  
食事内容・量の確認  
6000歩/日を目指す

**＜学び＞**  
対象者さんが今後も健康にすごすことができるように、生活背景や健康状態を把握し、起こりうる健康問題を考えることができた。病院での定習では、患者の生活の様子をみることができないので、今回の訪問で地域で生活している患者の健康問題とその支援の必要性を改めて強く感じた。

ICFモデルを使って... **健康状態** 66G

**＜心身機能＞**  
腰が悪い。病院に定期的に通う。

**＜活動＞**  
散歩  
買い物は近所のスーパー健康番組を見る

**＜参加＞**  
ダイサービス  
健康サークル

**＜環境因子＞**  
引っ越し  
近所に親戚あり  
知人・友人が多い  
COCの訪問

**＜個人因子＞**  
70代女性 一人暮らし  
長年教育に携わる  
健康に対する意識が高い  
社会的

Aさんが地域で充実した生活を続ける為に

**Aさんの生活**  
・商店を経営  
・畑仕事  
・家事全般  
・週1のゲートボール

**Aさんの健康**  
腰・腰の痛みで整体に通っている  
L1階段の昇降の球子を確認  
・通院(血圧など)  
・体に異変が感じたら不安や理屈をつたせられる  
・話しを聞く

**Aさんの住む地域**  
高齢者の方が多い  
一人暮らしの方が多い  
詐欺に狙われやすい  
孤立する危険性

**支援の仕組み**  
詐欺の手口や被害の情報共有  
隣人同士で安全確認  
毎週末のアウトドア仲間との旅行  
→ 日々の楽しみ

**Aさんと取り組む地域の繋がりを**  
Aさんと取り組む地域の繋がりを

**1年間の学び**  
・通院や、夏の暑い時期の熱中症予防等、Aさん自身の健康管理により元気な身体を築いた。  
・家族や地域の方々の繋がりがAさんの生活健康に良い影響  
・来年度に向けて  
・腰の痛み等Aさんの健康や不安と一緒に向き合い考える  
・Aさんの生活や健康を支える為に必要な地域活動を考える

# 5

## 学内（大分県立看護科学大学）での教育・研究体制

### 1. 学内検討会

#### 第1回 学内検討会

- 1 日時：平成27年10月13日（水）15：45～16：30
- 2 場所：21講義室
- 3 出席者：教職員43人（教員：35人、職員：8人）
- 4 司会：影山隆之 看護研究交流センター長
- 5 議題：
  - （1）平成27年度上半期・実施報告
  - （2）平成27年度下半期の実施計画・相談事項
  - （3）事業評価部門からの報告
  - （4）来年度に向けて検討すべき事項



第1回学内検討会

#### 第2回 学内検討会

- 1 日時：平成28年1月26日（水）16：20～17：50
- 2 場所：23講義室
- 3 出席者：教職員46人（教員：44人、職員：2人）
- 4 司会：藤内美保学部長
- 5 議題：
  - （1）平成27年度事業経過報告について
  - （2）平成27年度予防的家庭訪問実習の効果
  - （3）平成28年度事業計画（案）について
- 6 意見交換：
  - （1）平成28年度事業報告会（地域交流会）について
    - ・学園祭などのイベントと共催してはどうか。
    - ・学生の学びの発表は、地域で行うのではなくて学内でもよいのではないか。
  - （2）予防的家庭訪問実習について
    - ・学生は予防的家庭訪問実習を行うことによって、病院実習で受け持つ患者の自宅での生活をイメージできるようになってきた。
    - ・予防的家庭訪問実習による協力者への効果は、今後出てくるのではないかと感じている。
    - ・予防的家庭訪問実習が2年目のグループはより深く協力者と関わることができていた。
    - ・予防的家庭訪問実習のまとめをすることは学生にとって必要な作業だと思う。



第2回学内検討会



## 2. 事業評価

本事業評価には、①協力者への効果、②地域住民への効果、③学生への効果の側面から検討する必要がある。

### ① 協力者への効果（アンケート結果を一部抜粋し掲載）

#### 健康への意識の高まり・健康行動への変化

- より健康について意識するようになった。
- 学生が来るので健康維持ができています。
- 認知症予防のことなど教えてくれるので、実践するようにしている。
- 学生の訪問を受けるようになって、休肝日をしっかり1回/週とるようになった。
- 学生が作成した薬カレンダーを使用し飲み忘れがなくなった。
- 家庭訪問を受けることで適度な緊張感がうまれ、自分の体を気にかけるようになった。
- 運動が苦手だが、散歩を続けて歩数を記録するようになった。
- 今日が何月何日か意識するようになった。
- 学生の話すことによって、昔の記憶がよみがえり、「あの頃あんなに頑張っていたんだから、頑張ろう！」と元気がわく。

歩いて協力者宅に向かう様子



訪問時にバースデーカードをお渡しする

#### 楽しみ・安心・希望

- 学生が訪問に来てくれるのが楽しみ。
- 学生が訪問に来てくれると嬉しい。
- 学生さんから元気をもらった。
- 学生さんから希望をもらった。
- 自分も家も自然と明るくなった。
- 学生の訪問で安心する。
- 学生が来ることを周りに自慢している。
- 子どもが帰って来るような楽しい気持ちになる。
- 若い人と話すと明るくなる。
- 学生が来ると夫婦の会話も弾む。
- 笑顔が何より嬉しい。
- 学生の訪問実習を高齢者の一人暮らしで、不安が多かったが、気持ちが安らいだ。

## 世代間の交流

- 若い人たちが富士見が丘団地に来てくれると思うと、それだけで活気ができます。
- 家に引きこもりがちになるから、学生が来てくれると良い。
- 看護師の卵である学生が医療の知識を地域の人に教えたりすると、さらに深い関係づくりができるのではないかと思った。
- 熱心な生徒が訪問に来てくれて、孫みたいにいる。
- 自分達の生活が、学生の学びとなっているので自分たちもしっかりと生活していかなければならないと感じた。
- 来てくれないときは寂しいなと思う。また団地内を若い学生たちが歩いているのを見ると、良いことだなと思う。
- 若い世代の人のことを考えるようになり、子どもや孫への接し方が変わった。



協力者からお手玉の作り方を教わっている



事業報告会（地域交流会）での学びの発表



事業報告会（地域交流会）で地域住民と運動する様子

## ② 地域住民への効果【事業報告会（地域交流会）時のアンケート結果を一部抜粋し掲載】

### 地域とのつながり

- 予防的家庭訪問実習が始まった当初から関わっているため、大分県立看護科学大学やその学生さんに変に親近感がある。
- 地域の身近な大学が、予防的家庭訪問実習を野津原で実施しているということを知り、非常に嬉しく思っている。
- 予防的家庭訪問実習が始まり、野津原地区や富士見が丘団地と大学との距離が近くなったように思う。
- 学生が野津原に出向いてくれることは地域の活性化にもつながり、とても良い事業だと思う。

### 本事業への期待

- 大分県立看護科学大学の学生や教員には大変期待している。ぜひともこの事業を継続していただくと大変ありがたい。
- 大学だけで学ぶという時代はもう終わりつつあると感じる。学生はこの実習のように地域に出て学ぶことも大切だと思う。
- 予防的家庭訪問実習を通して、学生に地域に入ってもらって、平均寿命ではなくて健康寿命を上げることができれば良いと思う。
- 行政としても、健康寿命を延ばすよう対策をしていかなければならない。看護大学は野津原地区にあるので、ぜひ看護大学の若い力を貸してほしい。  
(自治体・行政職員)

### 学生・大学への思い

- 大分県立看護科学大学が自分たちの地域にあることを非常にありがたく思う。
- 地域に根差した実習をする大分県立看護科学大学は素晴らしい。
- 若い学生と交流することができてエネルギーをもらった。ありがとう。
- 地域と大学が情報交換しながら、今後も一緒に協力しながら前に進めれば良いと思う。
- 最近、身近な方が亡くなったが、その方が自分のように学生の訪問などを受けていたら、もっと長生きできたのではないかなと思う。

### ③ 学生への効果（学生レポートより一部抜粋）

地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）における「予防的家庭訪問実習」に臨むにあたって、学生は訪問毎にレポートを作成し、協力者への理解を深め支援につなげてきた。年度末には、1年を通しての学びを最終レポートとして作成し大学に提出している。今回は、複数ある学生のレポートから学生の学びの一部を抜粋し掲載した。

#### 1 予防的家庭訪問実習全体を通しての学びの記載

- ・今まで病院の実習では、どうしても現在の患者の状態にばかり目が行きがちだったが、予防的家庭訪問実習を通してもっと地域に目を向け広い視野をもって看護をしていかなければならないということに気づくことができた。  
(4年次生)
- ・高齢化に伴い、医療職は施設や病院の利用者だけではなく、地域で暮らす高齢者の生活をイメージし、どのように関われば良いのか、と考える必要があることを学んだ。予防的家庭訪問実習を通して、協力者の自宅に実際に訪問し、生活の様子を実際に見ることにより、高齢者一人ひとりに、個別性のある看護を提供する時に活かすことができると考える。  
(4年次生)
- ・身体的なことは座学や臨床実習で学ぶことができるが、地域の高齢者の生活は実際に活動している人たちに接し関わることでしか分からないことがあることに気づき、驚きや感動することも多かった。このような体験が、今後の看護職としての活動に役立つのではないかと感じた。  
(3年次生)
- ・予防的家庭訪問実習が実際に地域住民とコミュニケーションをとる初めての機会となった。病院で病気を患った患者さんとの関わりしかなかったため、健康な高齢者の生活を考える機会がなかった。今回の実習を通して、生活者として協力者を捉えるためには、協力者だけでなく、住民の居住する地域にも目を向け、協力者の住む地域や家庭内における役割を考えたいうえで、看護職としての役割を考えていく必要があると感じた。  
(2年次生)
- ・健康面についての情報を地域住民からお聞きし、学生側が調べたものをまとめて情報提供することは予防的家庭訪問実習特有であり、実際の生活者を対象として健康について考える良い機会となった。  
(1年次生)

予防的家庭訪問実習は  
地域と関わり  
連携する  
ことだと感じました。  
(3年次生)



# 「地（知）」

に基づいた学び

## 2 訪問地域毎の学びの記載

### 野津原地区

月に1回ふれあいサロンが開かれており、高齢者の認知症予防や交流のために、地域ぐるみで活動を行っていることを知ることができ、健康保持増進のためのかかわりをするうえで重要な情報であると感じた。(4年次生)

近隣の住民が共通の仕事(畑仕事)をされており、畑仕事自体が健康維持のための適度な運動となっていることを訪問をとおし知ることができた。(4年次生)

高齢者の方の生活は様々な困難があることを感じた。例えば、冬は買い物に行きたくても、坂のところがか凍結して転倒の危険があるため出かけることができないことや、近所の人との交流があまりなく寂しい思いをしていることなどである。その地域の特性を踏まえた援助が必要と考えた。(3年次生)

日中にはゲートボール、地域のサロンの委員も務めており、身体的にも社会的にも充実した生活ができていた。協力者が健康的な生活を送るうえで強みとなる。この強みをどのようにサポートしていくかが重要だと感じた。(3年次生)

積極的に外にでたり地域社会に参加していたり、運動をしたり、食生活に気を遣っていたり、健康に対して意識が高いと感じた。地域のサロンや長寿会なども充実しており、地域全体が健康に対しての意識が高いことも知ることができた。(2年次生)

地域で行われている高齢者の交流会があること、家族の方が身の回りのお世話をしていること、どこまで自立して行動できているのかなど、コミュニケーションをとる中で考えることができた。(1年次生)

### 富士見が丘団地

手芸教室や散歩に取り組んでおられ、そういった活動が指先の機能や全身筋力などを維持させ健康増進の働きかけにつながっていることを知ることができ、援助していきたいと思った。(4年次生)

老人会等に参加し、同じ地域住民と交流を持つことで、お互いに助け合い生活していることを知ることができた。そのような方が、自宅より良い暮らしを送るための援助について十分に考えていく必要があると学んだ。(4年次生)

健康意識が強く、学生の私たちに様々な知識を教えてくれた。他の学生との情報交換から他人とのかかわりがほとんど無い生活を送っている方もおられ、健康意識にも差があることを訪問を通して知ることができた。(3年次生)

身体的な健康だけでなく、精神的にも社会的にも充実した生活を送っていくためにはどうすれば良いのかを4学年で協力して考えることも出来ました。(3年次生)

病気を持っていたとしても、それを上手くコントロールしながら、楽しみや生きがいを持って、住み慣れた地域でその人らしく生活しているということを学ぶことができた。(3年次生)

地域のサロンや老人会、習い事などに積極的に参加されており、脳の活性化のために新聞の文字を書き写すなど自宅でも様々な活動を行っていた。生活環境などの個性をふまえて対象理解をすることが大切であると感じた。(2年次生)

運動や仕事を通して周囲の地域住民と積極的に関わっており、学生が話をお聞きしただけでも、健康的で充実した毎日を送っていると感じた。(1年次生)



# 「知(地)」

## に基づいた学び

予防的  
家庭訪問  
実習は  
**看護の  
進歩**  
だと思  
いました。  
(4年次生)

## ④ 対照群調査

### 目的

予防的家庭訪問実習が実習協力者に与える効果を明らかにするために、「実習協力者」と「実習に参加しない方」（対照群）の生活・健康状態を経年的に比較することを目的とする。

### 方法

#### 1 情報（研究データ）収集について

##### (1) 予防的家庭訪問実習協力者に対して

学生が、聴き取りや観察を通して、協力者から情報（研究データ）を収集した。情報（データ）が不足している場合には、看護研究交流センター職員が訪問し追加で情報（研究データ）を収集した。

##### (2) 対照群に対して

①実習協力者と同地区（野津原地区と富士見が丘団地）の高齢者サロンに参加する原則75歳以上の高齢者を対象とした。

②看護研究交流センター職員が高齢者サロンに行き研究に関する説明を実施、同意が得られた方を対象として情報（研究データ）を収集した。

#### 2 情報（研究データ）収集項目について

##### ①健康や生活に関する項目

##### ②血圧、脈拍、体力測定（握力、立位保持時間）

### 実施状況

#### 1 期間：平成27年9月2日（水）～10月28日（水）

調査場所：全11か所（野津原地区7か所、富士見が丘団地3か所、植田地区1か所）の高齢者サロン

#### 2 実施内容

(1) アンケート調査（調査内容説明、同意書記入）

(2) 身体測定（身長、体重、血圧、脈拍）

(3) 体力測定（握力、開眼片足立ち）

#### 3 結果表送付

調査協力者に、結果票と粗品を送付した。



アンケート調査



血圧測定

調査日	時間	場所	高齢者サロン名	人数 (うち75歳以上)
9/2(水)	8時30分 ～ 11時30分	竹の内公民館	竹の内ふれあいサロン	18(15)
9/3(木)	8時30分 ～ 11時50分	原村ふれあい センター	原村ふれあいサロン	26(22)
9/7(月)	10時50分 ～ 12時15分	富士見が丘 公民館	わかば老人クラブ	48(27)
9/8(火)	8時30分 ～ 11時20分	野津原支所	サブナ健康体操 グループ	29(14)
9/15(火)	8時30分 ～ 11時30分	田島公民館	田島地区心の会	18(12)
9/16(水)	11時 ～ 12時15分	富士見が丘 公民館	長寿会	14(6)
9/17(木)	13時 ～ 15時30分	上詰公民館	上詰ふれあい いきいきサロン	20(13)
10/8(木)	9時40分 ～ 11時	Nスポランド	Nスポいきいき 元気教室	17(16)
10/14(水)	8時30分 ～ 11時	新町公民館	新町地区 ふれあいサロン	9(9)
10/15(木)	13時 ～ 14時	野津原支所	ななせいきがいくらぶ	12(12)
10/28(水)	9時 ～ 12時	富士見が丘 公民館	はつらつサロン	27(27)
合計				238(173)

## ⑤ Colorado大学 名誉教授 Kathy Magilvy博士によるコンサルテーション

### 事業進捗報告

- 1 日時：平成27年9月7日（月） 14：15～17：00
- 2 場所：大分県立看護科学大学 34講義室
- 3 出席者：Kathy Magilvy博士、  
村嶋幸代、影山隆之、佐藤玉枝、岩崎りほ、板井里枝、巻野希和、（通訳：土井美智子）
- 4 記録：巻野希和
- 5 資料：COC Project Progress Report  
Research plan to evaluate COC project
- 6 説明内容：影山看護研究交流センター長より、事業の経過と事業評価について説明した。その際に、実際の家庭訪問場面の様子の動画を上映した。



スライドを用いた事業の説明



コロラド大学名誉教授  
Kathy Magilvy博士

### コンサルテーション①

- 1 開催日時：平成27年9月8日（火） 13：15～16：00
- 2 場所：大分県立看護科学大学 34講義室
- 3 出席者：Kathy Magilvy博士、  
村嶋幸代、影山隆之、佐藤玉枝、岩崎りほ、板井里枝、巻野希和、（通訳：土井美智子）
- 4 記録：巻野希和
- 5 資料：Analysis procedure, Results of analysis：Student's Reports
- 6 説明内容・アドバイス内容：  
学生の実習記録を、「学生の学び」に着目し質的に分析した結果を報告した。  
回数の視点で分析する時、「学生個人の訪問回数」と「協力者が実際に受けた訪問回数」の違いを意識すると良い等、今後の分析のアドバイスを得た。



訪問実習についての報告をする教員



訪問実習についてアドバイスをするKathy Magilvy博士



## コンサルテーション② 予防的家庭訪問実習同行・同行訪問の振り返り

### 予防的家庭訪問実習同行

- 1 訪問日時：平成27年9月9日（水）12：30～16：30
- 2 場所：富士見が丘団地 実習協力者宅
- 3 参加者：Kathy Magilvy博士  
成人・老年看護学研究室：甲斐博美  
学生：近藤里咲（4年）、田邊千尋（2年）、藤澤彩花（1年）  
看護研究交流センター：岩崎りほ、板井里枝、  
（通訳：土井美智子）  
大分合同新聞記者  
OBS取材チーム

- 4 内容：
  - (1) 訪問前のカンファレンス  
学生が、実習協力者の紹介をした後に、  
本日の訪問実習の目的を伝えた。
  - (2) 家庭訪問  
予防的家庭訪問実習に同行し、協力者宅へ訪問した。



協力者宅での様子



家庭訪問実習前のカンファレンス

平成27年9月12日(土) 大分合同新聞 朝刊10頁掲載

### 県立看護科学大が「予防的家庭訪問実習」

大分市廻栖野の県立看護科学大学（村嶋幸代学長）は本年度から「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」を実施している。外出の機会が減り、孤立しがちな高齢者の自宅を学生が訪問。健康状態を把握したり、会話を通じて心のケアをするなど高齢者が自立して暮らすことができるようにして、地域のまちづくりに貢献することを目的としている。



対象者（左端）と話す学生（右から2人目）を見守るキャシー・マギルビー名誉教授（中央）

女性は「いつも来てくれるのを楽しみにしている。孫のよううれしい」と笑顔。訪問した近藤里咲さん（21）は「実習を通して学ぶことが多い。私たちが何かしら対象者の支えになれば」と話していた。

訪問は対象者から断られることがない限り、定期的に続けられる。年度末には取り組みの報告会が予定されている。マギルビー名誉教授は「米や日本で聞いたことがない珍しい取り組み。学生たちもよくコミュニケーションが取れていた。今後の発展が楽しみ」と期待していた。

（渋谷優子）

### 高齢者の自立促す

健康や食事「支えになれば」

健康、食事のことなどについて約1時間聞き取りをした。

事業には1～4年の学生の希望者80人の自宅に1、330人全員が参加し、異なる学年でグループを構成している。血圧や体温、大学近くの野津原地区、握力測定をしたり、訪問者富士見が丘団地の75歳以上の要望に応じて筋力低下防

止の運動や食事のアドバイスもしている。

8日は地域看護が専門の米コ罗拉大学のキャシー・マギルビー名誉教授が来

県し、学生の訪問に同行した。70代の女性宅では、学生が変わったことがないことや、最近の生活の様子、女性に興味を持っている健

## 同行訪問の振り返り

- 1 日時：平成27年9月10日（木） 15：30～16：30
- 2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室
- 3 参加者：Kathy Magilvy博士  
村嶋幸代、佐藤玉枝、甲斐博美、岩崎りほ、板井里枝、巻野希和、（通訳：土井美智子）
- 4 記録：巻野希和
- 5 説明内容（グループ担当教員甲斐博美）：
  - ・ 学生が落ち着いて、自信を持って訪問に行くことが出来るよう関わった。
  - ・ 学生は自分たちが思っていた以上に協力者と話すことができびっくりしていた。協力者、学生共に訪問が楽しい時間になっているようだ。
  - ・ 次の訪問までの準備を楽しむことが出来るのがこの実習の魅力だと思う。
- 6 アドバイス内容
  - ・ 担当教員の学生に対する姿勢が素晴らしかった。
  - ・ 担当教員が自信を持って学生に接していることが、学生の自信にもつながり、その結果、落ち着いて訪問実習ができています。
  - ・ 訪問実習は、訪問している時間だけでなく、協力者に会えない時間も協力者のことを考えたりするなどして実習の影響を受けている。

## コンサルテーション③ 今後の事業について

- 1 日時：平成27年9月10日（木） 16：30～17：30
- 2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室
- 3 参加者：Kathy Magilvy博士  
村嶋幸代、佐藤玉枝、甲斐博美、岩崎りほ、板井里枝、巻野希和、（通訳：土井美智子）
- 4 記録：巻野希和
- 5 アドバイス内容：
  - ・ 今年度は本実習が全学的に始動して1年目なので、焦らずにゆっくりと着実に事業を進めるというプロセスが大切な時期である。
  - ・ 今年度は全ての学生にとって初めての实習であるため戸惑いも大きいですが、年々、実習経験者が多くなるので、自然に馴染むだろう。
  - ・ 予防的家庭訪問実習の学びが従来の看護実習に活かされていけよう。
  - ・ 卒業前の4年次生に、予防的家庭訪問実習の学びを振り返ってもらうためのインタビューを取り入れるのも良いだろう。
  - ・ 担当教員のフォーカスグループのインタビューを実施し、本実習について意見を聞き、討論するのも良い。



今後の事業についてのコンサルテーション



**研究**



**1** 村嶋幸代<sup>1)</sup>

シンポジウムⅡ 地域包括ケア時代における看護学教育の新たな取り組み  
『“地域志向のケア”教育強化に向けた取り組み』

第35回日本看護科学学会学術集会, 広島県, 広島国際会議場, 2015.12.6

1)大分県立看護科学大学

**2** Hiromi Fukuda<sup>1)</sup>, Ai Okamoto<sup>1)</sup>, Tamae Sato<sup>1)</sup>, Takayuki Kageyama<sup>1)</sup>, Naho Baba<sup>1)</sup>, Gerald Shirley<sup>1)</sup>, Kathy Magilvy<sup>2)</sup>, Sachiyo Murashima<sup>1)</sup>

Preventive interventions of nursing students to the elderly of the community through a continuous preventive home visit practicum: A qualitative research analysis

6TH International Conference on Community Health Nursing Research, Seoul National University, Seoul, South Korea. 2015.8.20

1)Oita University of Nursing and health Sciences, Oita, Japan

2)University of Colorado, Colorado, USA

**3** Riho Iwasaki<sup>1)</sup>, Tamae Sato<sup>1)</sup>, Kathy Magilvy<sup>2)</sup>, Takayuki Kageyama<sup>1)</sup>, Sachiyo Murashima<sup>1)</sup>

Development of a project supporting aging in rural Japanese communities

49TH Western Institute of Nursing, Disneyland Hotel, Anaheim, USA. 2016.4.9

1)Oita University of Nursing and health Sciences, Oita, Japan

2)University of Colorado, Colorado, USA





**地域貢献**





## 1

# 大分県立看護科学大学・日本文理大学 共同記者会見

1 日時：平成27年4月28日（火）12：30～13：30

2 場所：大分駅ビル「JRおおいたシティ」2階会議室

3 参加者：

- (1) コーディネーター  
(株)日本政策投資銀行大分事務所 所長 武田浩
- (2) 大分県立看護科学大学学長 村嶋幸代、他教職員12人  
日本文理大学学長 平居孝之、他関係者
- (3) 大分県医療政策課 2人  
(医療政策課長、同課看護班課長補佐（総括）)
- (4) 記者 4人  
(大分合同新聞、大分経済新聞、毎日新聞、共同通信社 各1人)

4 共同記者会見内容説明（日本文理大学 学長室長 吉村充功）

- (1) 大分県立看護科学大学（平成25年度採択）  
「看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業」
- (2) 日本文理大学（平成26年度採択）  
「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」

5 学長対談【コーディネーター：(株)日本政策投資銀行大分事務所 所長 武田浩】

大分県立看護科学大学村嶋学長、日本文理大学平居学長 一部抜粋

(1) 地域での教育研究活動に対する住民の受け入れと学生活動に対する反応について（本学に関する意見）

### 地域の高齢者（協力者）の反応

- ・孫のような学生が来てくれてうれしい。
- ・家でゆっくりくつろいで話すことができるので緊張せずに話せる。
- ・次に何を話そうか、いろいろ考えるのが楽しみ。

### 学生の反応

- ・地域での生活者としての家での生活を知ることによって退院後の生活がイメージでき、退院指導につながるができる。
- ・家の状況と家での普段の動きを知ることができ、具体的なかわりができる。
- ・1～4年次生で訪問するので、いろいろな視点で協力者を見ることが出来る。
- ・各学年の関係性を築くことができる。
- ・上の学年は責任感が出る。下の学年は上の学年を通じた学びができる。
- ・高齢者は、学生が普段聞くことが出来ない戦争体験などの話をしてくれ、貴重な体験ができる。

(2) 「地（知）の拠点整備事業（大学COC 事業）」が地域に与える影響について

- ・地域の高齢者が元気になり、地域も活性化する。
- ・高齢者が地域で生きていくための資源配分やあり方を考えることができる。
- ・地域の基盤づくりのためのボランティア活動参加、自治会への共同を行っている。
- ・教員が地域の活性化について考え始めていることが、大学の一体感につながっている。

(3) 地方創生を踏まえた教育・人材育成・地域との連携・COCとしての大学の役割について

- ・看護教育では、地域に根差した実習が求められており、地域に出ていく視点の教育が必要となる。そのためには、人材育成・地域に残る仕掛け・循環する仕組みが必要で、奨学金などの産・官・学の共同の支援が求められる。



大分県立看護科学大学  
村嶋 幸代学長挨拶

## 看護科学大と文理大 地域連携の成果を報告



大学での取り組みを報告する県立看護科学大の村嶋幸代学長（左）と、日本文理大学の平居孝之学長＝28日、大分駅ビル「JRおおいたシティ」

文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択されている県立看護科学大学(大分市廻栖野)の村嶋幸

代学長と、日本文理大学(同市一木)の平居孝之学長が28日、市内の大分駅ビル「JRおおいたシティ」で共同記者会見し、大学の取り組みを報告した。

看護大は2013年度、文理大は14年度に、いずれも5年間の事業採択を受け、地域と連携して教育や研究を進めている。活動内容を広く県民に知ってもらい、大分を担う人材育成を進めようと会見を開いた。

看護大の村嶋学長は、全学生がグループをつくって地域の高齢者宅を訪問する

実習を紹介。「高齢者の日常を知り、何が必要かを学生が考えるようになった」などと成果を報告した。

文理大の平居学長は「地域創生人材」を育成するためのカリキュラム変更など大学改革について説明。「大学が地域で役立つという実績を残したい」と述べた。

# 県立看護大と日本文理大 地方創生へ学生育成

文科省「地(知)の拠点整備事業」に採択

県立看護科学大(大分市廻栖野、村嶋幸代学長)と日本文理大(同市一木、平居孝学長)が文科科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択され、地方創生を目指す学生の育成に力を入れていることをアピールした。



それぞれの大学の取り組みを発表する(左から)村嶋、平居両学長

看護科学大の村嶋学長は4月28日の共同記者会見で、学生が高齢者を訪れて健康状態や生活実態を把握し、自宅で暮らし続けられるように支える家庭訪問実習に取り組んでいることを報告した。

原則1〜4年の4人でチームを組み、高齢者を年3、4回、4年間継続して訪問する。2年間の試行を経て、この4月本格スタートした。全学生必修の実習としており、試行に参加した学生から「健康な高齢者に予防的に何ができるか考える機会になった」といった感想があったという。

「地(知)の拠点整備事業」は、地域活性化の拠点となる大学を支援する文科省の事業。全国で77校、県内ではこの2校が採択されている。

また、日本文理大の平居学長は、地域の課題を学び、解決法を考える授業の充実に向けてカリキュラムを変更していることを報告。

地域の課題を自分の課題として考え、解決に向けて挑戦する「地域創生人」の育成が目標で、現在は全体の約2割だが、5年後には必修を含む約4割に授業量を増やすという。具体的には、農業体験や民泊を通じ、1次産業や地域コミュニティについて学ぶなどの活動をしている。

【池内敬芳】

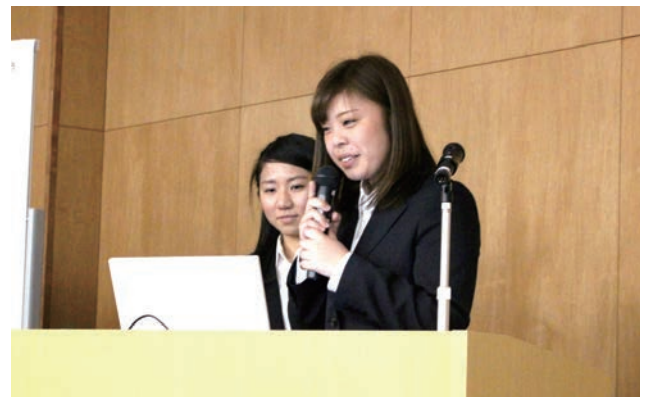
# 2

## 大分県立看護科学大学・日本文理大学 成果発表会&合同シンポジウム ～地域をまもり、地域をつくる、大学の取り組み～

- 1 日時：平成28年2月11日（木）8：30～18：00
- 2 場所：ホルトホール大分
- 3 参加者：365人（一般173人、協力者11人、協力者の家族3人、講師・来賓7人、  
大分県立看護科学大学教職員・学生26人、日本文理大学教職員・学生102人、高校生43人）
- 4 発表学生：荻本明日香（3年）宮本季歩（1年）岩本美穂（3年）倉光真由（1年）
- 5 コーディネーター：亜細亜大学 学 長 栗田 充治
- 6 パネリスト：岩波内科クリニック 院 長 岩波 栄逸  
大分市市民部野津原支所 支所長 渡邊 信司
- 7 来賓：野津原地区自治委員連絡協議会 会 長 佐藤 克治  
富士見が丘連合自治会 会 長 佐々倉 幸義
- 8 プログラム
  - (1) 主催者代表挨拶  
平居孝之（日本文理大学 学長）
  - (2) 各大学取り組み説明
    - ①豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成  
吉村充功（日本文理大学 学長室長）
    - ②看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業  
佐藤玉枝（大分県立看護科学大学 看護学部 特任教授）、動画放映
  - (3) 学生取り組み成果発表
    - ①高齢者の健康維持・増進に向けた予防的看護の関わりについて ～野津原地区の取り組み～
    - ②一人暮らしの高齢者が生きがいをもって若々しく過ごすために ～富士見が丘団地の取り組み～
  - (4) パネルディスカッション
  - (5) 閉会挨拶  
村嶋幸代（大分県立看護科学大学 学長）
- 9 その他内容：訪問かばん・物品展示、ポスター展示



学生による発表



学生による発表



佐藤 玉枝特任教授による事業の取組説明



パネルディスカッション



発表について話し合う参加者

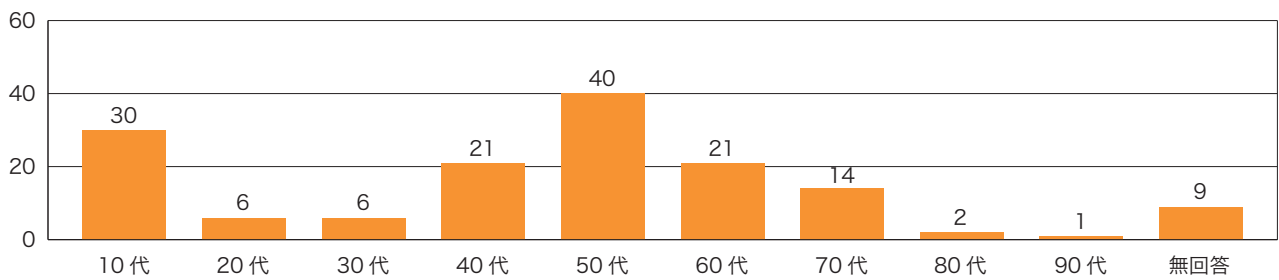


村嶋 幸代学長による閉会挨拶

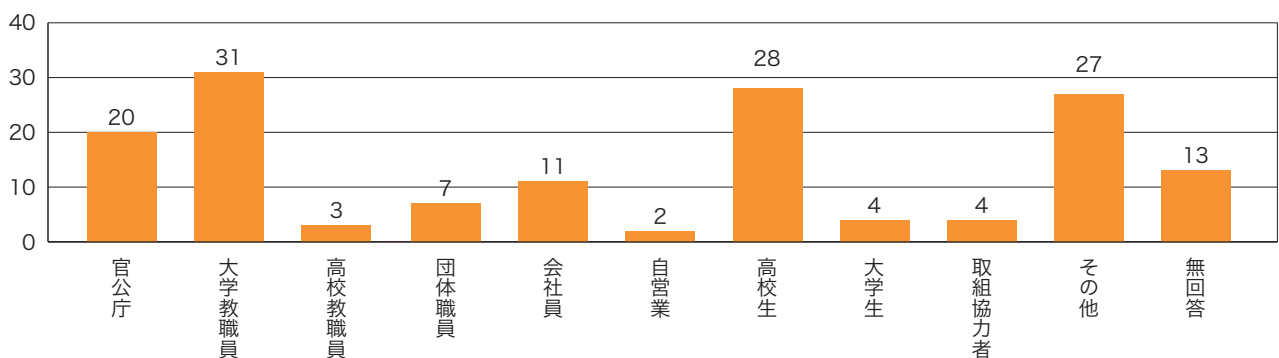
10 アンケート集計結果

回収数：150

参加者の年齢

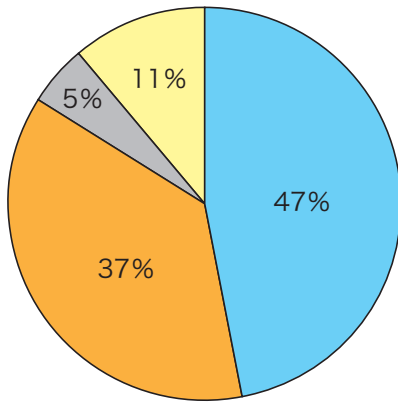


参加者の職業



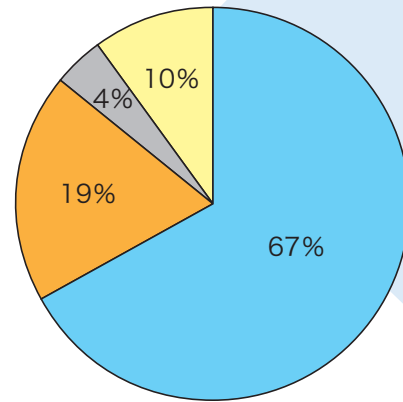
1. 今回の成果発表会&合同シンポジウム（全般）の内容はどうでしたか。

■ 大変良かった ■ 良かった  
■ 普通 ■ 無回答



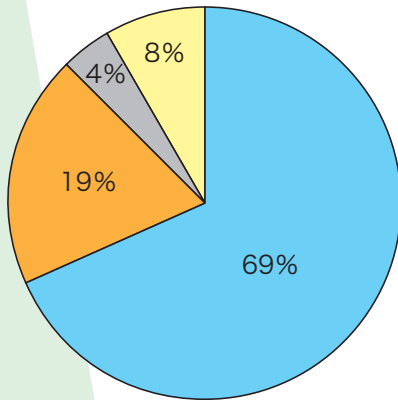
2. 「各大学取組説明」の内容はどうでしたか。看護大のCOC事業の取組内容について

■ 興味を持った ■ 少し興味を持った  
■ 普通 ■ 無回答



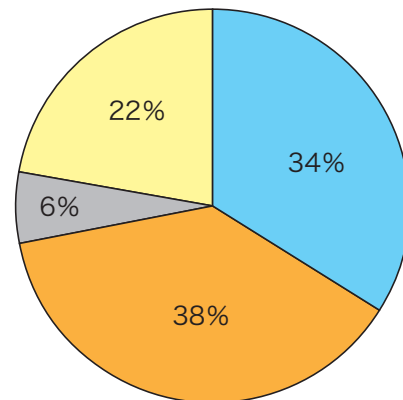
3. 「学生の取組成果発表」の内容はどうでしたか。看護大の学生の取組成果発表について

■ 興味を持った ■ 少し興味を持った  
■ 普通 ■ 無回答



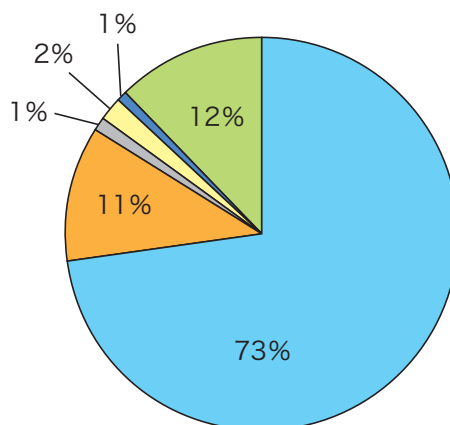
4. パネルディスカッション「大分の未来をまもり、つくる人材育成の可能性」の内容はどうでしたか。

■ 大変良かった ■ 良かった  
■ 普通 ■ 無回答



5. 文理大と看護大の「地（知）の拠点整備事業」合同成果発表会を、今後も開催した方がよいでしょうか。

■ 継続を期待する ■ 数年に一度の開催を期待する ■ あまり期待しない  
■ 開催を期待しない ■ わからない ■ 無回答



## II 参加者の感想（一部抜粋）

- ・両大学の地域貢献活動、事業の取り組みが理解できた。この様な取り組みが真の街づくり、地域創生の基礎となると思う。今後も継続して実施してもらいたい。
- ・国および各産業界をあげて地域創生と言われているが、かけ声だけで具体性がないように感じていた。しかし今回の発表を聞いて、若者が地域を考える事は非常に意義深いと思った。地域は国が創るのではなく、人が創るものと感じた。学生たちが地域とのコミュニケーションを通じて、地域を愛する人材になる事を期待したい。
- ・看護が地域と連携していくことの必要性を感じているもののどんな形でそれが可能になるのかなかなか形に見えなかったが、今回のシンポジウムや発表がヒントになった。
- ・学生は“生き方”を学んでいると思った。
- ・地域の方の信頼も厚くコミュニケーションが良くとれていることが分かった。学生さん、地域の方がいきいきとしていてうらやましく感じた。
- ・地域をキャンパスにして世代をこえて、お互いに成長しあっている地域活動がすごいですね。この時代を生き抜く力を学び、幸せ感を共有できるところが感動的だった。
- ・家庭訪問実習は非常によい取り組みだと思う。できれば、看護だけでなく、高齢者にかかわる様々な問題（防犯、防災、交通事故）等もからめて、他の大学でも同じような取り組みを行ってほしい。学生のコミュニケーション能力向上と高齢者の安全・安心の確保を図り、より良い地域づくりを進めてもらいたい。
- ・少子高齢化の進む中で、医療という視点で地域と関わり、学生たちも成長していく、とてもいい取り組みだと思う。

## 少子高齢化など 研究成果を発表

文理大と看護科学大

文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択されている大分市の日本文理大学と県立看護科学大学は11日、合同の研究発表会を同市金池南のホルトホール大分で開いた。

両大学は少子高齢化やコミュニティの衰退などをテーマに地域と連携した教育や研究を進めており、地方の活力となる人材育成で協力している。日本文理大学の平居孝之学長は開会のあいさつで「地域の創生を目指すことで大学に活力が生まれ、地域に貢献できると

いう思いが大きくなっていく」と話した。

豊後大野市の小規模集落支援や大分市富士見が丘地区の高齢者家庭訪問など、これまでの研究成果を報告。「大分の未来をまもり、つくる人材育成の可能性」と題したパネルディスカッションもあった。



約300人が参加した研究発表会



# 3

## 野津原地区の祭り（ななせの里まつり） ～予防的家庭訪問実習コーナー～

- 1 日時：平成27年11月1日（日）9：00～16：00
- 2 場所：みどりの王国
- 3 内容：
  - （1）動画放映
  - （2）握力測定
  - （3）訪問靴・物品展示、平成25.26.27年度事業報告ポスター・写真展示
- 4 担当スタッフの感想：
  - （1）予防的家庭訪問実習協力者の方2人がブースに展示を見に来てくれた。
  - （2）握力測定に興味を抱く方が多く、100人程度を測定した。
  - （3）教職員がブース展示以外にもななせの里まつりの催しものに参加し、地域の方と交流できた。



握力測定を実施している来場者

## 4

# OBS大分放送テレビ放映 ～予防的家庭訪問実習場面～

- 1 日時：平成27年10月21日（水）13：00～15：00
- 2 場所：富士見が丘団地 予防的家庭訪問実習協力者宅（70代女性）
- 3 取材者：OBS大分放送
- 4 担当者：学生4人、グループ担当教員1人、看護研究交流センター教員3人
- 5 内容：

普段夫婦のみで外出することが困難な協力者。協力者の家族が散歩を安全に行うことができるように学生が計画し、支援を行った。散歩の途中で計画にないコースを散歩することになったが学生は臨機応変に対応し無事に散歩を終了した。ご夫婦ともに散歩を楽しんでおり、散歩後には協力者の夫より「散歩することができて嬉しかった。」という感想をいただき、学生と共に笑い合う様子がみられた。



予防的家庭訪問実習協力者とその家族、  
担当している学生の散歩風景

# 5

## 学園祭（若葉祭） ～ポスター展示～

- 1 日時：平成27年5月16日（土）・17日（日）
- 2 場所：大分県立看護科学大学 演習室
- 3 ポスター見学者数：合計36人
  - ①予防的家庭訪問実習協力者2人（富士見が丘団地）
  - ②地域住民4人（富士見が丘団地2人、その他2人）
  - ③学内関係者27人
  - ④病院関係者1人、大分県関係者2人
- 4 担当者：5月16日（土）教職員4人 5月17日（日）教職員2人
- 5 ポスター見学者の意見：
  - ・ 予防的家庭訪問実習で訪問に学生が来てくれるのがとても楽しみであり、学生が1年間の学びをこのようにポスターにまとめてくれるのをみると、協力者になってよかったと思った。（予防的家庭訪問実習協力者）
  - ・ 学生が自宅に訪問してくれる実習があるのは、とてもいい実習に取り組んでいると思った。自分も75歳という年齢に達したらぜひ協力したい。（地域住民）
  - ・ 訪問に行った時、病気のことなどの話題だけをする場ではなく、趣味や生活についてなど笑いがある明るい雰囲気ですごくよいことを感じた。（学生）



実習について話す  
地域住民と教員

## 6

# オープンキャンパス ～予防的家庭訪問実習って何だろう？～

- 1 日時：平成27年7月19日（日） 11:30～14:00
- 2 場所：大分県立看護科学大学 演習室
- 3 見学者数：合計44人（高校生31人・保護者13人）
- 4 担当者：教職員5人、学生3人
- 5 担当スタッフの感想：
  - ・ 入口で動画放映をしたことが宣伝効果になった。
  - ・ 動画でみることで実習風景がよくわかる。



ブースに来た高校生とその保護者の見学風景



写真展示



ポスター展示

# 資料



# 大分県立看護科学大学

## 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議設置要綱

### 目 的

第1条 地(知)の拠点整備事業を大分県立看護科学大学(以下、「大学」という。)と地域、関係機関が連携して効果的に推進し、地域住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図ることによって、地域のまちづくりに寄与するとともに、大学として新たな取り組みによる質の高い看護教育効果を達成できるよう事業計画や進行管理、評価等を行うため事業推進会議(以下、「会議」という。)を設ける。

### 任 務

第2条 会議は、次に掲げる事項について検討協議する。

- (1) 事業推進計画に関すること。
- (2) 事業の中間評価、事業評価に関すること。
- (3) その他事業の推進に関すること。

### 組 織

第3条 会議は、委員30人以内で組織する。

- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 会議に委員長および副委員長を置く。
- 4 委員長および副委員長は、委員の互選により選出する。

### 職 務

第4条 委員長は、会議を招集し、その議長となる。

- 2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

### 代 理

第5条 委員である者が会議に出席できない場合には、その会議当日のみ代理の者を委嘱された委員の代わり委員と認めるものとする。

### 幹事会

第6条 会議に、事業の推進に関する調査研究を行うため、幹事会を置く。

### 庶 務

第7条 会議の庶務は、大分県立看護科学大学が行う。

### 雑 則

第8条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則 この要綱は、平成25年10月1日から施行する。

# 大分県立看護科学大学

## 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議幹事会運営要領

### 1 目的

幹事会は、大分県立看護科学大学地(知)の拠点整備事業推進会議設置要綱に基づき、地(知)の拠点整備事業(以下、「事業」という。)の効果的な推進について研究することを目的とする。

### 2 任務

幹事会は、次に掲げる事項について研究を行う。

- (1) 事業の計画に関すること。
- (2) 事業の評価、見直しに関すること。
- (3) その他事業の推進に関すること。

### 3 組織

- (1) 幹事会は、幹事若干人で組織する。
- (2) 幹事会は、必要があると認められるときは、関係者に出席を求めて意見を聴くことができる。

### 4 庶務

幹事会の庶務は、大分県立看護科学大学で行う。

### 5 その他

この要領に定めるもののほか、幹事会の運営に必要な事項は別に定める。

### 附則

この要領は、平成25年10月1日から適用する。

### 平成27年度地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)幹事会メンバー

平成27年4月1日現在

区分	氏名	所属・組織等	役職等
野津原地区	川本 浩史	野津原地区地域包括支援センター	センター長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課 西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘 団地	野口 咲美	植田西地域包括支援センター	センター長
	木崎 美穂	大分市保健所西部保健福祉センター	参事補
	小田原純平	大分市保健所西部保健福祉センター	主任保健師
大分市	生野 裕子	大分市役所福祉保健部長寿福祉課	参事補
	村嶋 幸代		学長
大分県立 看護科学大学	堤 健一		事務局長
	佐藤 玉枝	地域看護学研究室	特任教授
	岩崎 りほ	看護研究交流センター	助教

### 平成27年度地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)地域連絡会議メンバー

平成27年4月1日現在

区分	氏名	所属・組織等	役職等
野津原地区	佐藤 克治	野津原地区自治委員連絡協議会	会長
	渡邊 信司	大分市市民部野津原支所	支所長
	有賀美枝子	大分市保健所健康課 西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘 団地	佐々倉幸義	富士見が丘連合自治会	会長
	竹上 浩二	富士見が丘連合自治会	福祉部長
	高田かず子	横瀬地区社会福祉協議会 横瀬地区民生児童委員協議会	事務局長 富士見が丘担当
	生野 信頼	富士見が丘公民館	事務長



# 平成27年度 文部科学省

## 地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)推進会議委員名簿

平成27年4月1日

区分	氏名	所属・組織等	役職等	備考
野津原地区	佐藤 克治	野津原地区自治委員連絡協議会	会長	
	分藤 靖弘	野津原地区社会福祉協議会	会長	
	工藤富士隆	野津原地区民生児童委員協議会	会長	
	川本 浩史	野津原地区地域包括支援センター	センター長	
	渡邊 信司	大分市市民部野津原支所	支所長	
	有賀美枝子	大分市保健所健康課 西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長	
富士見が丘 団地	佐々倉幸義	富士見が丘連合自治会	会長	
	高田かず子	横瀬地区社会福祉協議会 横瀬地区民生児童委員協議会	事務局長 富士見が丘担当	
	野口 咲美	植田西地域包括支援センター	センター長	
	伊藤真由美	大分市市民部植田支所	参事兼支所長	
	木崎 美穂	大分市保健所西部保健福祉センター	参事補	
	竹上 浩二	富士見が丘連合自治会	福祉部長	オブザーバー
	生野 信頼	富士見が丘公民館	事務長	オブザーバー
小田原純平	大分市保健所西部保健福祉センター	主任保健師	オブザーバー	
大分市 郡市医師会	岩波 栄逸	大分郡市医師会	副会長 (岩波内科クリニック院長)	
大分県 看護協会	甲斐久美子	大分県看護協会	副会長	
大分県 国民健康 保険団体 連合会	薬師寺章光	大分県国民健康保険団体連合会事業課	課長	オブザーバー
	大島 敦子	大分県国民健康保険団体連合会事業課	主幹(総括)	
大分市	後藤 剛	大分市役所福祉保健部長寿福祉課	課長	
	生野 裕子	大分市役所福祉保健部長寿福祉課	参事補	オブザーバー
	軸丸千賀子	大分市保健所健康課	次長兼課長	
	竹野美和子	大分市保健所健康課	参事	オブザーバー
大分県	小林 由美	大分県福祉保健部福祉保健企画課	主幹	
	加来 理香	大分県福祉保健部医療政策課	課長補佐(総括)	
	麻生 竜二	大分県福祉保健部高齢者福祉課	主幹(総括)	
大分県立 看護科学大学	村嶋 幸代		学長	
	影山 隆之	精神看護学研究室・看護研究交流センター	研究科長・看護研究 交流センター長	
	藤内 美保	看護アセスメント学研究室	学部長	
	佐藤 玉枝	地域看護学研究室	特任教授	
	甲斐 倫明	環境保健学研究室	教授	
	市瀬 孝道	生体反応学研究室	教授	
	小野 美喜	成人・老年看護学研究室	教授	
	福田 広美	保健管理学研究室	教授	
	堤 健一		事務局長	
	朝倉 泰三	総務グループ	リーダー(課長補佐)	
	岩崎 瑞穂	総務グループ	サブリーダー(主幹)	
	江田真砂実	教務学生グループ	副主幹	
	事務局	岩崎 りほ	看護研究交流センター	助教
松本 初美		看護研究交流センター	特任講師	
板井 里枝		看護研究交流センター	助手	
巻野 希和		看護研究交流センター	ティーチング・ アシスタント	
神崎 純子		看護研究交流センター	事務員	

# 新聞・インターネット掲載記事

平成27年4月15日(水) 毎日新聞 ネットニュース掲載

## 県立看護大:高齢者宅訪ね実習 全学年の必修に /大分

毎日新聞 2015年04月15日 地方版

県立看護科学大（大分市廻栖野）は、学生が高齢者宅を訪問し、日常の暮らしぶりを学ぶ一方、健康維持に役立ててもらふ必修講座を開く。2年前から試行してきたが、今年度から正式にスタートした。14日の説明会で村嶋幸代学長は「全国的に初めてではないか。違う学年の人と一緒にだと緊張するだろうが、学ぶことも多いはずだ」と学生を励ました。

受け入れるのは大学から近い住宅地の同市富士見が丘地区と、山あいの野津原地区の75歳以上計80人。各学年が入るよう4人でチームを組み、1人の高齢者宅を年3、4回訪れる。会話から始め、健康状態の聞き取りや血圧測定などを通じ、自宅で暮らし続けられるように支える。

学外での活動のため、大学はトラブル回避に注意。説明会では個人情報を守る義務や、病気治療に関しては安易に答えないといった点が強調された。

試行段階の昨年度に高齢者宅を訪問した4年生の深水志帆さん（21）は「奥様も含めて血圧を測ったり、食事の塩分量を知ってもらったりして、話ができるようになりました。将来保健師を目指していますが、病院だけでなく在宅の高齢者の暮らしを知ることは絶対役立つと思う」と話していた。【池内敬芳】

## より実践的な講座へ。大分県立看護科学大学が高齢者宅の訪問を必修化

2015/04/22 14:00

ツイート いいね! 354



先日「東北福祉大学が2015年度より認知症サポーター養成講座を必修化」というニュースをお伝えしましたが、大分県立看護科学大学では、2年前から試験的に行ってきた学生が高齢者宅を訪問し、健康状態の聞き取りや血圧測定などを行う講座を必修化するという事です。

今年度から正式なスタートとなったこの必修講座は、大分県立看護科学大学の近隣にある住宅地と少し離れた中山間地域の高齢者80名の住まいを年に4回のペースで訪れ、健康状態の聞き取りや血圧測定などを通じて、実践的な看護や介護の知識へつなげていくというもの。全学年が参加し、最上級生から新入生まで4名が1組のチームとなって行われます。

大分県立看護科学大学では学外活動となることからトラブル回避を徹底して注意。個人情報を守る義務や病気の治療に関しては安易に決めつけるなどの回答は避けるという説明を実施。高齢者の暮らしに触れることは、学生にとって医療機関や介護施設の見学だけではなく、これからの時代に増えていくであろう在宅介護にも参考になるのではないのでしょうか。

## アメリカの専門家からも高評価！大分県立看護科学大学の高齢者宅訪問実習が話題に

2015/09/22 10:00

ツイート

いいね!

358



年齢を重ねるに従って外出の機会が減り、どうしても孤立しがちな高齢者世帯を学生が訪問して心身のケアをする大分県立看護科学大学の『看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業』が2015年度から本格的にスタートし、関係者の間で話題となっています。

この事業には大分県立看護科学大学に所属する1年生から4年生の全員が参加。異なる学年で4名1組のチームを結成し、大学近郊の野津原地区や富士見が丘団地で暮らしている75歳以上の高齢者80名の自宅に定期的に訪問し、体温や血圧の測定をはじめ、要望があれば、筋力低下を防止するための簡単なエクササイズや食事に関する助言、会話によるコミュニケーションを行うなど、学生たちのできる範囲で心身のケアを実施しているということです。

9月8日にはアメリカのコロラド大学で地域看護を教えているキャシー・マギルビー名誉教授が学生たちの訪問活動に同行。アメリカでもあまり聞いたことのない先進的な取り組みとして、今後の活動の発展にも期待を寄せているということです。学生たちにとっては、実際に高齢者のもとへ足を運ぶことで、なかなか座学だけでは学習できない実践的な訪問医療や看護、介護の現実を知る機会になっているほか、高齢者からも訪問を楽しみにしていると好評でした。

大分県立看護科学大学の『看護学生による予防的家庭訪問実習を通じた地域のまちづくり事業』は今後も定期的に続けられ、年度末には総括として報告会が予定されています。教育機関が地域の健康寿命延伸に貢献する活動の一つだといえるでしょう。

<http://www.minnanokaigo.com/news/N22042798/>

# 事業実施記録

佐藤克治（野津原地区自治委員協議会 会長）の協力を得て制作した。

制作動画：

- (1) 看護学生による予防的家庭訪問実習 家庭訪問風景  
(撮影日 平成27年6月24日)
- (2) (1) の英語版
- (3) 看護学生による予防的家庭訪問実習 事業報告会（地域交流会）風景  
(撮影日 平成28年1月13日、1月20日)
- (4) 対照群調査風景  
(撮影日 平成27年9月3日)



看護学生による予防的家庭訪問実習  
家庭訪問風景DVD

## 平成27年度 COCプロジェクトメンバー

平成27年4月1日付

村嶋 幸代（学長・理事長）  
佐藤 玉枝（COCプロジェクトリーダー・地域看護学 特任教授）  
藤内 美保（学部長・看護アセスメント学 教授・理事）  
影山 隆之（看護研究交流センター長・研究科長・精神看護学 教授・理事）  
堤 健一（事務局長・理事）  
市瀬 孝道（生体反応学 教授）  
小野 美喜（成人・老年看護学 教授）  
福田 広美（保健管理学 教授）  
岩崎 りほ（看護研究交流センター 助教）  
朝倉 泰三（事務局 課長補佐）  
岩崎 瑞穂（事務局 主幹）  
江田真砂美（事務局 副主幹）  
中野麻梨子（事務局 主任）

## 平成27年度 看護研究交流センタースタッフ

平成27年4月1日付

影山 隆之（看護研究交流センター センター長）  
岩崎 りほ（看護研究交流センター 助教）  
松本 初美（看護研究交流センター 特任講師）  
板井 里枝（看護研究交流センター 助手）  
巻野 希和（看護研究交流センター ティーチング・アシスタント）  
神崎 純子（看護研究交流センター 事務員）

発行日 平成28年6月  
発行者 大分県立看護科学大学 看護研究交流センター  
〒870-1201  
大分県大分市大字廻栖野2944-9  
TEL 097-586-4300（大学代表）  
TEL 097-586-4346（看護研究交流センター直通）  
FAX 097-586-4347  
E-mail k-center@oita-nhs.ac.jp  
http://www.oita-nhs.ac.jp/np/coc

## 平成27年度事業報告書 編集メンバー

平成28年4月1日付

岩崎 りほ（看護研究交流センター 助教）  
平井 和明（看護研究交流センター 助手）  
板井 里枝（看護研究交流センター 助手）  
巻野 希和（看護研究交流センター ティーチング・アシスタント）  
今池 純子（看護研究交流センター ティーチング・アシスタント）